B5FK-8021-02 Z0

FUJITSU Tablet ARROWS Tab

ARROWS Tab Q507/PB
ARROWS Tab Q507/PE
ARROWS Tab Q507/P-SP

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 ソフトウェア
5 BIOS
6 お手入れ
7 トラブルシューティング
8 仕様

目次

本書をお読みになる前に 7
安全にお使いいただくために 7
本書の表記 7
Windowsの操作 9
BIOSやドライバーのアップデートについて 11
商標および著作権について 12

第1章　各部名称

1.1 タブレット本体表面 14
1.2 タブレット本体右側面 16
1.3 タブレット本体左側面 17
1.4 タブレット本体裏面 18
1.5 キーボード 20
1.6 クレードル 22
1.7 スリムキーボード／軽量スリムキーボード 23

第2章　取り扱い

2.1 フラットポイント 26
2.1.1 注意事項 26
2.1.2 基本操作 27
2.1.3 高度な操作 28
2.1.4 フラットポイントの設定を変更する 29
2.1.5 フラットポイントの有効／無効を切り替える 29
2.2 マウス 30
2.2.1 注意事項 30
2.2.2 マウスの基本設定を変更する 30
2.3 タッチパネル 31
2.3.1 注意事項 31
2.3.2 基本操作 33
2.3.3 文字を入力する 34
2.3.4 キャリブレーション 34
2.3.5 タッチパネルの設定を変更する 35
2.3.6 ペン先を交換する 36
2.4 ディスプレイ 37
2.4.1 注意事項 37
2.4.2 明るさを調整する 37
2.4.3 解像度を変更する 39
2.4.4 拡大表示設定を変更する 40
2.4.5 ディスプレイ省電力テクノロジー 41

2.5 マルチディスプレイ機能 42
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは 42
2.5.2 注意事項 42
2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する 43
2.6 画面表示の回転 44
2.6.1 注意事項 44
2.6.2 手動で画面表示の向きを変える 45
2.6.3 状態が変わったときの動作を設定する 46
2.7 サウンド 47
2.7.1 全体の再生音量を調節する 47
2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 48
2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する 48
2.7.4 既定のオーディオ機器を選択する 49
2.8 省電力 50
2.8.1 省電力状態 50
2.8.2 電源を切る 51
2.8.3 本タブレットの節電機能 52
2.8.4 省電力設定 52
2.9 バッテリ 53
2.9.1 注意事項 53
2.9.2 バッテリを充電する 54
2.9.3 バッテリの残量を確認する 54
2.9.4 バッテリの状態を確認する 54
2.10 通信 55
2.10.1 有線LAN 55
2.10.2 無線LAN 56
2.10.3 無線WAN 56
2.10.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー 56
2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する 57
2.11 ステータスパネルスイッチ 59
2.11.1 注意事項 59
2.11.2 ステータスパネルスイッチを起動する 59
2.11.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える 60
2.11.4 各モードの設定を変更する 61
2.11.5 ワンタッチキャプチャを利用する 62
2.12 ダイレクト・メモリースロット 63
2.12.1 注意事項 63
2.12.2 使用できるメモリーカード 63
2.12.3 メモリーカードをセットする 64
2.12.4 メモリーカードを取り出す 65
2.13 セキュリティチップ（TPM） 66

2.14 防水／防塵性能 67
2.14.1 防水性能でできること 67
2.14.2 防水性能を維持するために 68
2.14.3 防水性能をお使いになるうえでの注意 69
2.14.4 水抜き 70
2.14.5 充電のときの注意 71

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 73
3.1.1 注意事項 73
3.2 クレードル 74
3.2.1 注意事項 74
3.2.2 クレードルを取り付ける 75
3.2.3 クレードルを取り外す 76
3.3 スリムキーボード／軽量スリムキーボード 77
3.3.1 注意事項 77
3.3.2 スリムキーボード／軽量スリムキーボードを取り付ける 78
3.3.3 スリムキーボード／軽量スリムキーボードを取り外す 80
3.4 nanoSIMカード 81
3.4.1 注意事項 81
3.4.2 nanoSIMカードを取り付ける 82
3.4.3 nanoSIMカードを取り外す 83
3.5 アタッチメント 84
3.5.1 注意事項 84
3.5.2 アタッチメントを取り付ける 85
3.6 コネクタの接続／取り外し 86
3.6.1 注意事項 86
3.6.2 ディスプレイコネクタ 86
3.6.3 USBコネクタ 87
3.6.4 オーディオ端子 88
3.6.5 LANコネクタ 88

第4章 ソフトウェア

4.1 ソフトウェアの紹介 90
4.1.1 一覧表の見かた 90
4.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 91
4.1.3 サポート関連のソフトウェア 92
4.1.4 ユーティリティ 93
4.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 93
4.1.6 Office製品 94

4.2 インストール 95
4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール 95
4.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール 97
4.2.3 「i-フィルター」のインストール 97
4.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 97
4.2.5 Office製品のインストール 98
4.3 アンインストール 99
4.3.1 注意事項 99
4.3.2 アンインストール方法 99

第5章 BIOS

5.1 BIOSセットアップ 101
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 102
5.2.1 BIOSセットアップを起動する 102
5.2.2 BIOSセットアップ画面 103
5.2.3 BIOSセットアップメニュー 103
5.2.4 BIOSセットアップを終了する 104
5.2.5 起動メニューを使用する 105
5.3 設定事例集 106
5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う 106
5.3.2 起動デバイスを変更する 108
5.3.3 Wakeup on LANを有効にする 109
5.3.4 イベントログを確認する 109
5.3.5 イベントログを消去する 110
5.3.6 ご購入時の設定に戻す 110

第6章 お手入れ

6.1 日常のお手入れ 112
6.1.1 タブレット本体、クレードル、
スリムキーボード／軽量スリムキーボードの表面の汚れ 112
6.1.2 スライド式静脈センサー 112
6.1.3 液晶ディスプレイ／タッチパネル 113

第7章 トラブルシューティング

7.1 トラブル発生時の基本操作 115
7.1.1 状況を確認する 115
7.1.2 以前の状態に戻す 116
7.1.3 トラブルシューティングで調べる 116
7.1.4 Windowsのヘルプで調べる 116
7.1.5 インターネットで調べる 116
7.1.6 診断プログラムを使用する 117
7.1.7 サポートの窓口に相談する 118

7.2 よくあるトラブルと解決方法 119
7.2.1 トラブル一覧 119
7.2.2 起動・終了時のトラブル 121
7.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 123
7.2.4 ハードウェア関連のトラブル 124
7.2.5 エラーメッセージ一覧 135
7.3 それでも解決できないときは 137
7.3.1 お問い合わせ先 137

第8章 仕様

8.1 本体仕様 139
8.1.1 ARROWS Tab Q507/PB、ARROWS Tab Q507/PE 139
8.1.2 ARROWS Tab Q507/P-SP 146
8.2 CPU 152
8.3 ディスプレイ 153
8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 153
8.3.2 クローン表示の解像度 155
8.4 無線LAN 156

廃棄・リサイクル 158

付録1 タブレット本体の廃棄・譲渡時の注意 159

タブレットの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意 159
フラッシュメモリデータ消去 160

付録2 Windowsの新規インストールについて 163

注意事項 163
新規インストールの準備 164
新規インストール手順 164

付録3 認定および準拠について 166

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2017年6月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をタップし、「システム」をタップし、「デバイスマネージャー」をタップする操作

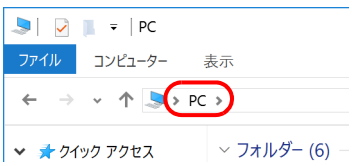
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にタップします。

■ ウィンドウ名の表記

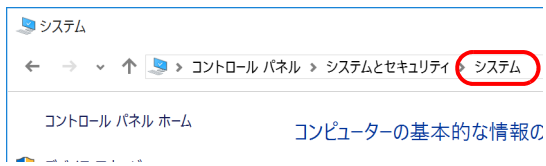
本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓

「PC」ウィンドウ



↓

「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリUSBメモリ（Windows 10の場合）
リカバリデータディスク（Windows 8.1の場合）
トラブル解決ナビディスク［リカバリ起動ディスク］（Windows 8.1の場合）
ドライバーズディスク（Windows 8.1の場合）

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。
Windows 8.1の場合は、ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Windows 10 Pro 64ビット版</td><td rowspan="2">Windows 10（64ビット版）</td><td rowspan="2">Windows 10</td><td rowspan="3">Windows</td></tr>
<tr><td>Windows 10 Home 64ビット版</td></tr>
<tr><td>Windows 8.1 Pro 64ビット版</td><td>Windows 8.1（64ビット版）</td><td>Windows 8.1</td></tr>
<tr><td>Windows Internet Explorer 11</td><td colspan="3">Internet Explorer</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Professional 2016</td><td>Office Professional 2016</td><td rowspan="3" colspan="2">Office</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Home & Business 2016</td><td>Office Home & Business 2016</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Personal 2016</td><td>Office Personal 2016</td></tr>
<tr><td>Windows Media® Player 12</td><td colspan="3">Windows Media Player</td></tr>
<tr><td>Bluetooth®</td><td colspan="3">Bluetooth</td></tr>
<tr><td>FUJITSU Software Portshutter Premium</td><td colspan="3">Portshutter Premium</td></tr>
<tr><td>FUJITSU Software パソコン乗換ガイド</td><td colspan="3">パソコン乗換ガイド</td></tr>
<tr><td>i-フィルター® for マルチデバイス</td><td colspan="3">i-フィルター</td></tr>
<tr><td>Roxio Creator LJ</td><td colspan="3">Roxio Creator</td></tr>
<tr><td>マカフィー® リブセーフ™</td><td colspan="3">マカフィー リブセーフ</td></tr>
</table>

Windowsの操作

■ 基本的操作の表記

本文中の基本的操作の表記は、主にタッチパネル操作で説明しています。
マウスやフラットポイントで操作する場合は、タッチパネル操作を読み替えてください。また、お使いになるアプリケーションの機能によっては、それぞれの操作方法が異なる場合があります。
タッチパネル操作とマウス操作／フラットポイント操作の主な使い方は、次のとおりです。

タッチパネル操作	マウス操作／フラットポイント操作
タップ	クリック
長押し	右クリック
ダブルタップ	ダブルクリック
ドラッグ／スワイプ	ドラッグ／スクロール

■ アクションセンター （Windows 10）

アプリケーションからの通知を表示する他、タップすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

1 画面の右端を左方向に、画面の外から中へスワイプします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ アプリ画面 （Windows 8.1）

インストールされている、すべてのプログラムを表示させる画面です。
次の操作で表示できます。

1 スタート画面で上方向にスライドします。

■ チャーム （Windows 8.1）

「チャーム」とは、必要なときに表示させて使う縦長のバーのことです。
画面の右端を左方向に画面の外から中へスワイプすると表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

1 画面左下隅の「スタート」ボタンを長押しし、「コントロールパネル」をタップします。
Windows 8.1のスタート画面では、マウスポインターを左下隅に合わせるとWindowsのマークが表示されます。

POINT

- Windows 8.1の場合は、アプリ画面（→P.10）からも表示できます。
  1.「Windows システム ツール」の「コントロールパネル」をタップします。

■ Windowsのヘルプ （Windows 8.1）

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

1 アプリ画面（→P.10）を表示し、「Windows システム ツール」の「ヘルプとサポート」をタップします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。
表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の をタップします。

■ Windowsモビリティセンター

本タブレットのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。
「Windowsモビリティセンター」は次の操作で起動します。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（ ）を長押しし、「Windowsモビリティセンター」をタップします。

POINT

- 次の操作でも表示できます。
  1. 画面左下隅の「スタート」ボタンを長押しし、表示されたメニューから「モビリティセンター」をタップします。
     - Windows 8.1のスタート画面では、マウスポインターを左下隅に合わせるとWindowsのマークが表示されます。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本タブレットには、さまざまなソフトウェアや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。
これらのソフトウェア、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。
アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本タブレットをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。
アップデート方法については、弊社アップデートサイト（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Atom、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG,Inc.が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Roxio、Roxioのロゴ、Roxio Creatorは、カナダ、アメリカ合衆国および/またはその他の国のCorel Corporationおよび/またはその関連会社の商標または登録商標です。

FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLCの商標または、登録商標です。

デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

InsydeH20はInsyde Softwareの登録商標です。

McAfee、マカフィー、McAfee のロゴ、LiveSafe、リブセーフは、米国法人 Intel Corporation またはMcAfee, Inc.、もしくは米国またはその他の国の関係会社における商標です。

SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。

SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。

Xi、FOMAはNTTドコモの商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2016-2017

本タブレットは、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.166）をご覧ください。

本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マークを画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.166）をご覧ください。

1

第1章

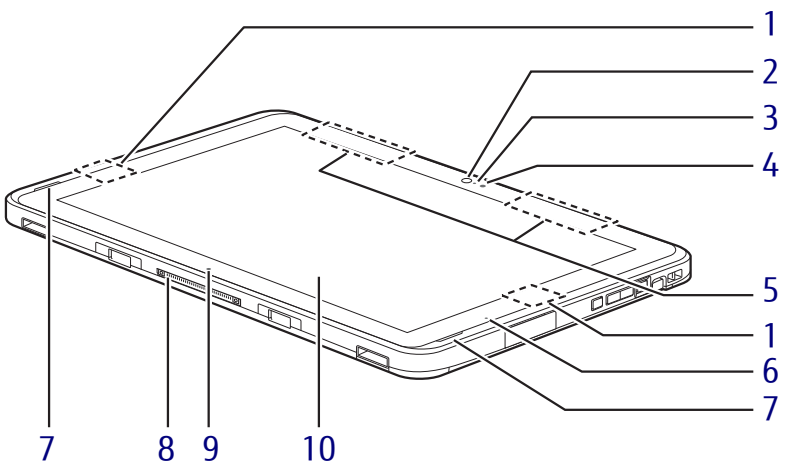
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

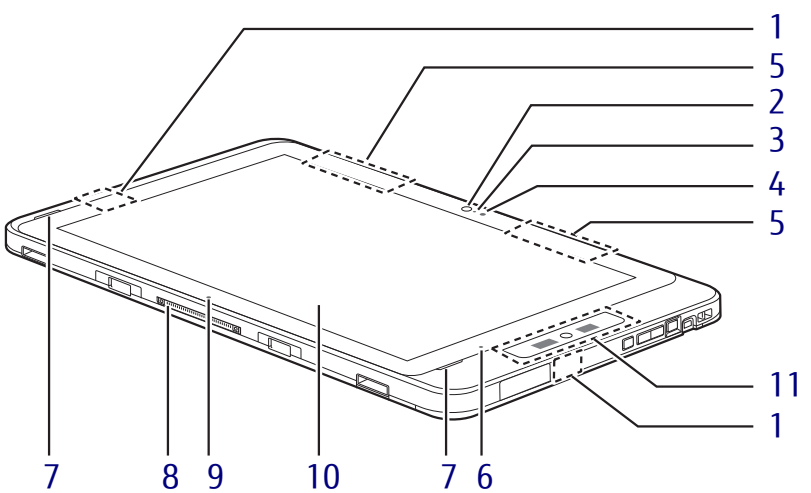
1.1 タブレット本体表面 14
1.2 タブレット本体右側面 16
1.3 タブレット本体左側面 17
1.4 タブレット本体裏面 18
1.5 キーボード 20
1.6 クレードル 22
1.7 スリムキーボード／軽量スリムキーボード 23

1.1　タブレット本体表面

■ ARROWS Tab Q507/PB、 ARROWS Tab Q507/PE



■ ARROWS Tab Q507/P-SP



1 ワイヤレスアンテナ
無線LAN・Bluetoothワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

2 インWebカメラ
自分を撮影するときなどに使います。

POINT

- 「YouCam Mobile for FUJITSU」（→P.93）を使用して動画を撮影する場合、最大解像度は1280×720までとなります。

3 インWebカメラ状態表示LED
インWebカメラが動作しているときに点灯します。

4 照度センサー
（→P.37）

5 無線WANアンテナ
（無線WAN搭載機種）
無線WANのアンテナが内蔵されています。

6 ⏻電源ランプ
本タブレットの状態を表示します。

LED表示	タブレット本体の状態
白色点灯	・動作状態 ・スリープ状態
消灯	・電源オフ ・休止状態

7 スピーカー

8 ドッキングコネクタ
（→P.75）／（→P.78）

9 位置合わせマーク
クレードルやスリムキーボード／軽量スリムキーボードに接続するときに位置を合わせます。

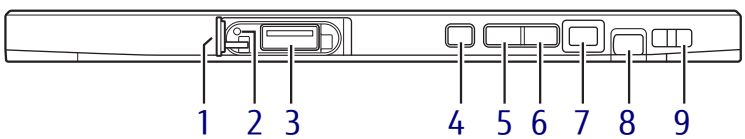
10 液晶ディスプレイ／タッチパネル
（→P.37）／（→P.31）

11 スライド式静脈センサー
コンピューターやWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。
お手入れ方法については、「6.1.2 スライド式静脈センサー」（→P.112）をご覧ください。

1.2 タブレット本体右側面

重 要

- ARROWS Tab Q507/PBで、標準モデルを選択した場合は防水に対応しています。
  NFCポートおよびVESAマウント対応を選択した場合は防水には対応していません。
- ARROWS Tab Q507/PE、ARROWS Tab Q507/P-SPは防水に対応しています。
- 防水については、「2.14 防水／防塵性能」（→P.67）を、お使いの機種の防水規格については、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。



1 カバー

2 強制終了スイッチ

電源ボタンで電源が切れなくなったときに使用します。
ACアダプタを接続している場合は必ず取り外し、クリップの先などを差し込んで押すとタブレットの電源が切れます。

重 要

- クリップの先などを差し込むときは、できるだけ垂直に、堅い物を押す感覚があるところまで差し込んでください。
- 強制終了スイッチで電源を切った後、最初にタブレットの電源を入れるときには、必ずACアダプタを接続した状態で電源ボタンを押してください。
- 強制終了スイッチを押すと、内蔵の時計がリセットされます。デスクトップ画面右下の日付と時刻を設定し直してください。

3 USB 2.0コネクタ

（→P.87）

4 ショートカットボタン

ご購入時はショートカットボタンの機能が設定されていますが、Windowsボタンの機能として使用することもできます。

ショートカットボタンとして使用
・短く押す：ステータスパネルスイッチ（→P.59）を起動する ・長く押す：ワンタッチキャプチャ（→P.62）を利用する
Windowsボタンとして使用
・スタートメニューを表示する ・Windows 8.1の場合は、電源ボタンと同時に押すことで、【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーと同じ動作をする注

注　Windows 10で【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーと同じ動作をする場合は、ボリュームダウンボタンと電源ボタンを同時に押してください。

重 要

- Windowsボタンとして使用する場合は、BIOSセットアップ（→P.102）で切替えてください。BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

5 ボリュームダウンボタン（−）

音量を小さくします。（→P.47）

6 ボリュームアップボタン（＋）

音量を大きくします。（→P.47）

7 電源ボタン

タブレット本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.50）にしたりします。

8 ペンホルダー（ペン）

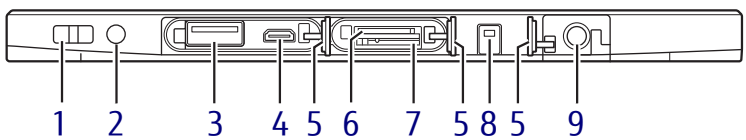
専用ペンを選択した場合、ペンを格納します。

9 ペンひも取り付け用穴

1.3 タブレット本体左側面

重 要

- ARROWS Tab Q507/PBで、標準モデルを選択した場合は防水に対応しています。
  NFCポートおよびVESAマウント対応を選択した場合は防水には対応していません。
- ARROWS Tab Q507/PE、ARROWS Tab Q507/P-SPは防水に対応しています。
- 防水については、「2.14 防水／防塵性能」（→P.67）を、お使いの機種の防水規格については、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。



1 ペンひも取り付け用穴

2 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子
（→P.88）

3 USB 3.0コネクタ
（→P.87）

4 microHDMI出力端子
（→P.86）

5 カバー

6 microSD ダイレクト・メモリースロット
microSDメモリーカードを差し込みます。
（→P.63）

7 nanoSIMカードスロット
（無線WAN搭載機種）
（→P.81）

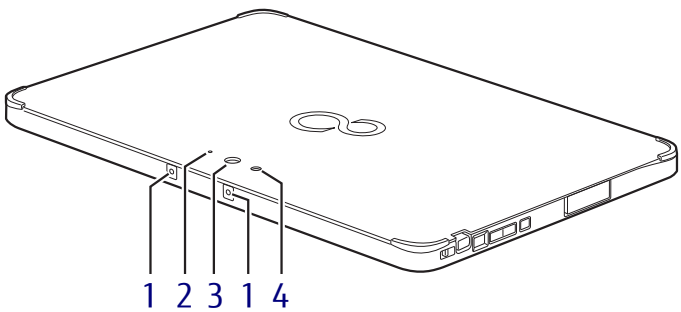
8 バッテリ充電ランプ
（→P.54）

9 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

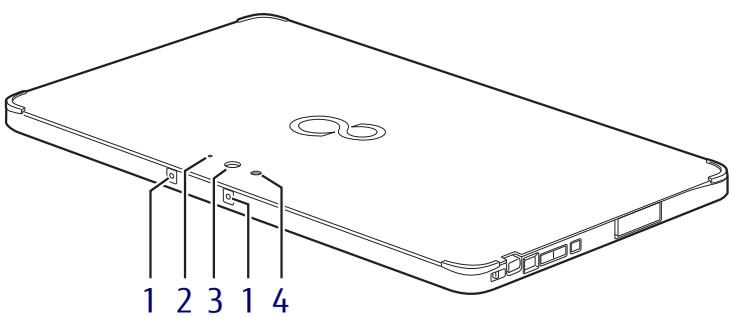
1.4 タブレット本体裏面

■ 標準モデル （防水対応）

□ARROWS Tab Q507/PB、 ARROWS Tab Q507/PE



□ARROWS Tab Q507/P-SP



1 内蔵マイク
音声通話や録音ができます。

2 アウトWebカメラ状態表示LED
アウトWebカメラが動作しているときに点灯します。

3 アウトWebカメラ

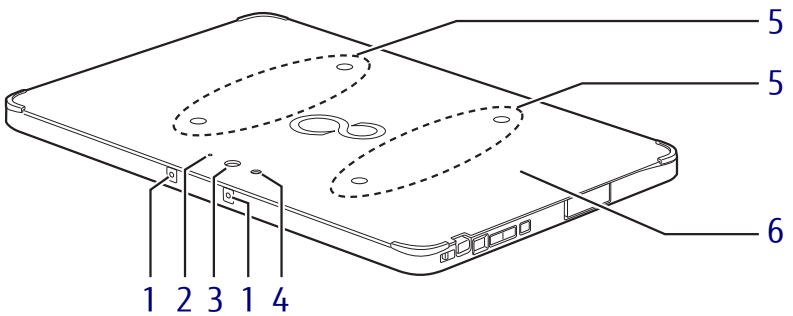
4 アウトWebカメラ用ライト
静止画や動画を撮影するときに使用します。

POINT

- バッテリ残量が少ない状態では、アウトWebカメラでの写真撮影時のフラッシュの明るさが暗くなります。
- 「YouCam Mobile for FUJITSU」（→P.93）を使用して動画を撮影する場合、最大解像度は1280×720までとなります。

■ NFCポート選択時／VESAマウント対応選択時　（防水非対応）

□ARROWS Tab Q507/PBのみ



1 内蔵マイク
音声通話や録音ができます。

2 アウトWebカメラ状態表示LED
アウトWebカメラが動作しているときに点灯します。

3 アウトWebカメラ

4 アウトWebカメラ用ライト
静止画や動画を撮影するときに使用します。

POINT

- バッテリ残量が少ない状態では、アウトWebカメラでの写真撮影時のフラッシュの明るさが暗くなります。
- 「YouCam Mobile for FUJITSU」（→P.93）を使用して動画を撮影する場合、最大解像度は1280×720までとなります。

5 ネジ穴
アタッチメントを取り付けます。（→P.84）

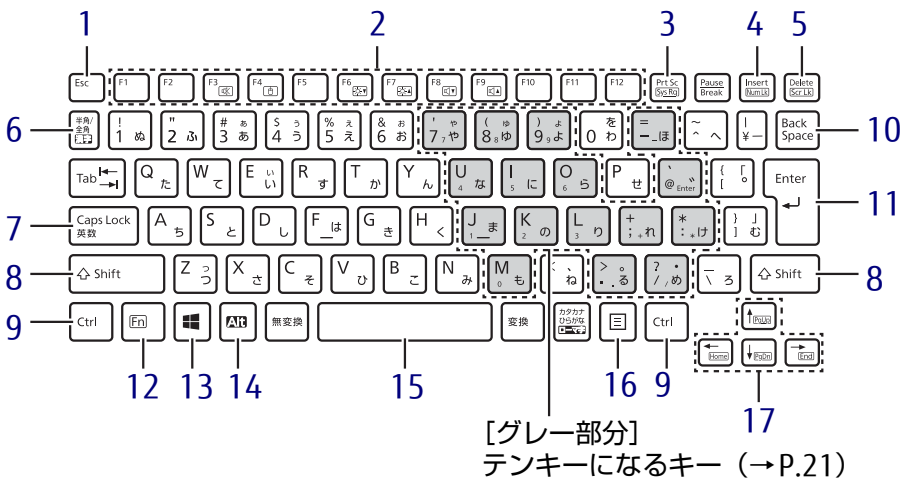
6 NFCポート
（NFCポート搭載機種）
Windowsの起動、ソフトウェアのサインイン時に、非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。IDやパスワードなどのセキュリティ情報は、ICカードに格納します。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

重要

- NFCを使用する場合は、Nマークの付近にかざしてください。
- ICカードはタブレット本体から3mm以下にかざし、Nマークを中心に前後左右10mmの範囲内で動かしてください。

1.5 キーボード

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時



1 【Esc】キー

2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

3 【Prt Sc】キー
画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.21）のオン／オフを切り替える 【Fn】キーと組み合わせて使う

5 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

6 【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

7 【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

8 【Shift】キー

9 【Ctrl】キー

10 【Back Space】キー

11 【Enter】キー

12 【Fn】キー
【Fn】キーを押しながら、枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】＋【F3/🔇】	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.47）
【Fn】＋【F4/🖱】	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.29）
【Fn】＋【F6/☼▼】	液晶ディスプレイを暗くする（→P.37）
【Fn】＋【F7/☼▲】	液晶ディスプレイを明るくする（→P.37）
【Fn】＋【F8/🔉▼】	音量を小さくする（→P.47）
【Fn】＋【F9/🔊▲】	音量を大きくする（→P.47）
【Fn】＋【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Fn】＋【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】＋【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【Fn】＋【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える
【Fn】＋【→/End】	カーソルを行の最後に移動する
【Fn】＋【Ctrl】＋【→/End】	文章の最後に移動する

13 【⊞】（Windows）キー
スタート画面または直前のアプリを表示します。

14 【Alt】キー

15 【Space】キー

16 【☰】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

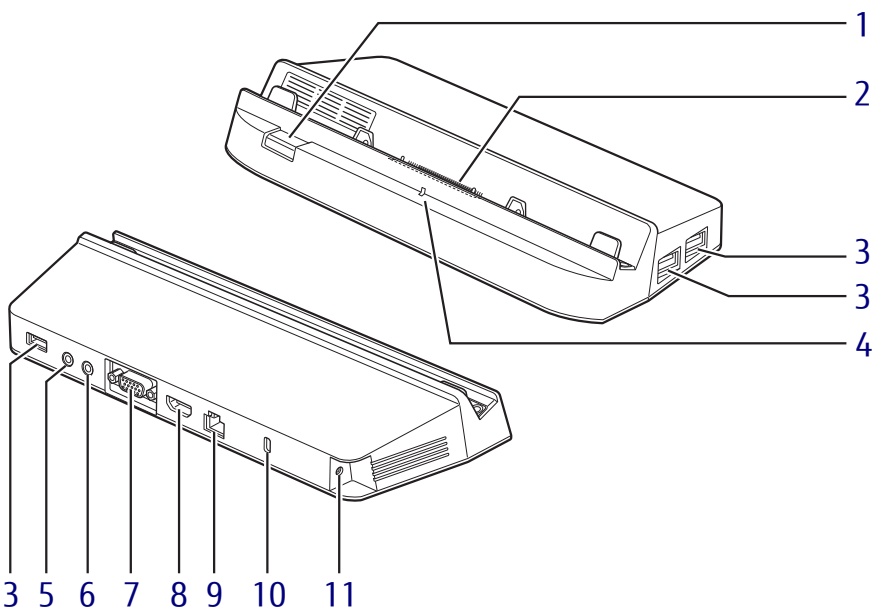
17 カーソルキー

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。
テンキーモードで入力できる文字は、各キーの下段に小さい文字で刻印されています。

1.6 クレードル

対 象　クレードル使用時



1 取り外しボタン
タブレット本体をクレードルから取り外す場合に押します。（→P.76）

2 本体接続コネクタ
タブレット本体にあるドッキングコネクタを接続します。（→P.75）

3 USB 3.0コネクタ
（→P.87）

4 接続確認ランプ
タブレット本体と接続されると点灯します。

LED表示	タブレット本体と接続時の状態
青色点灯	正常に接続されています。
消灯	・タブレット本体ときちんと接続されていません。取り付けなおしてください。 ・ACアダプタが接続されていません。

5 マイク・ラインイン兼用端子
（→P.88）

6 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
（→P.88）

7 アナログディスプレイコネクタ
（→P.86）
「HDMI出力端子」と同時に使用することはできません。

8 HDMI出力端子
（→P.86）
「アナログディスプレイコネクタ」と同時に使用することはできません。

9 LANコネクタ
（→P.88）

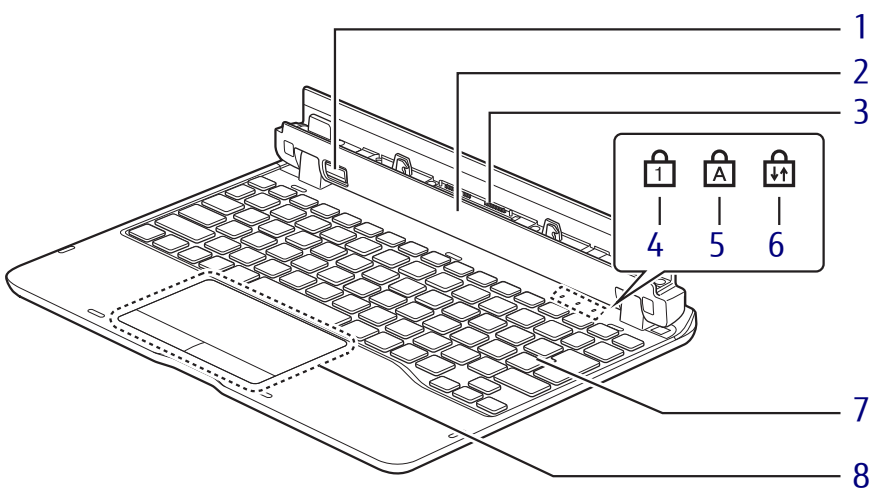
10 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

11 DC-INコネクタ
クレードル専用のACアダプタを接続します。

1.7 スリムキーボード／軽量スリムキーボード

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

■ スリムキーボード



1 取り外しボタン
タブレット本体をスリムキーボードから取り出す場合に押します。
（→P.80）

2 位置合わせマーク
タブレット本体に接続するときに位置を合わせます。

3 本体接続コネクタ
タブレット本体を接続します。（→P.78）

4 Num Lockランプ
キーボードがテンキーモード（→P.21）のときに点灯します。

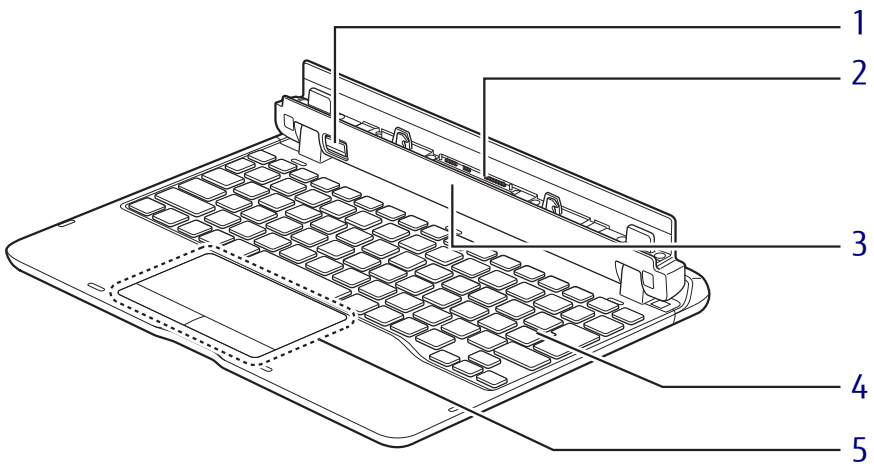
5 Caps Lockランプ
アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

6 Scroll Lockランプ
【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

7 キーボード
（→P.20）

8 フラットポイント
（→P.26）

■ 軽量スリムキーボード



1 取り外しボタン
タブレット本体をスリムキーボードから取り出す場合に押します。
（→P.80）

2 本体接続コネクタ
タブレット本体を接続します。（→P.78）

3 位置合わせマーク
タブレット本体に接続するときに位置を合わせます。

4 キーボード
（→P.20）

5 フラットポイント
（→P.26）

2

第2章

取り扱い

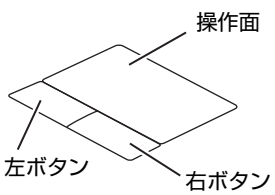
本タブレットを使用するうえでの基本操作や、本タブレットに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント 26
2.2 マウス 30
2.3 タッチパネル 31
2.4 ディスプレイ 37
2.5 マルチディスプレイ機能 42
2.6 画面表示の回転 44
2.7 サウンド 47
2.8 省電力 50
2.9 バッテリ 53
2.10 通信 55
2.11 ステータスパネルスイッチ 59
2.12 ダイレクト・メモリースロット 63
2.13 セキュリティチップ （TPM） 66
2.14 防水／防塵性能 67

2.1 フラットポイント

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1　注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2　基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

■ フラットポイントの基本設定を変更する

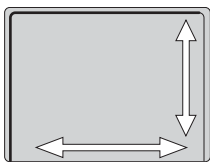
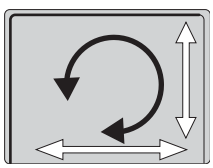
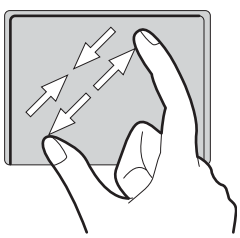
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更できます。

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.1.3　高度な操作

特定の操作をすることで、スクロールやズームといった機能が使用できます。機能によっては、ご購入時は無効に設定されている場合があります。
設定方法については、「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.29）をご覧ください。

機能	フラットポイントの操作	
エッジスクロール		右端や下端をなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。
円形スクロール		右端や下端をなぞってウィンドウの表示をスクロールさせた後、指を離さずに円状になぞると、スクロールの動作が続きます。 ・時計回り　：下／左にスクロール ・反時計回り：上／右にスクロール
ズーム		2本の指で斜めにつまんだり開いたりする操作をすると、ウィンドウの表示が縮小、拡大します。 ・つまむ：縮小 ・開く　：拡大

2.1.4　フラットポイントの設定を変更する

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 「ELAN」タブをクリックします。

3 「デバイス」から「Elan　スマートパッド」を選択し、「オプション」をクリックします。
「Elan Smart-Pad」ウィンドウが表示されます。必要に応じて設定を変更してください。

POINT

- 各項目の右側に表示される ▶（デモンストレーション）をクリックすると、各機能の操作方法が動画で表示されます。
  ？（ヘルプ）をクリックすると、各機能の説明が表示されます。

●「基本」タブ	●「拡張」タブ	●「追加」タブ
·タッピング ·ボタン ·ドラッグ＆ドロップ ·エッジスクロール ·コーナータップゾーン ·エッジスワイプ	·ズーム ·スクロール ·回転	·パーム測定 ·感度 ·タッチパッド無効

重 要

- マウスポインターが勝手に動いてしまう場合
  手のひらや袖口がフラットポイントに触れると、マウスポインターが動いてしまうことがあります。次の項目でフラットポイントの感度を変更すると改善できる場合があります。
  ・「追加」タブの「パーム測定」：フラットポイントに触れる手のひらなどを無視できます。
  - 「最大側」に動かすとタッチ感度が下がり、「最少側」に動かすとタッチ感度が上がります。
  - 誤反応を防止するには、「最大側」に動かして調整してください。

  ・「追加」タブの「感度」：フラットポイントの感度を調整できます。
  - 「高」側に動かすとタッチ感度が上がり、「低」側に動かすとタッチ感度が下がります。
  - 「低」に調整すると誤反応を防止しやすくなりますが、マウスポインターが動きにくくなることがあります。その場合、フラットポイントに指を強く押し付けるようにすると、マウスポインターを操作できます。

4 「OK」をクリックします。

2.1.5　フラットポイントの有効／無効を切り替える

【Fn】＋【F4】キーを押すたびに、フラットポイント使用の有効／無効が切り替わります。

POINT

- フラットポイントの有効／無効の切り替え状態は、画面上に表示されません。

2.2 マウス

対 象　マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1　注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2　マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

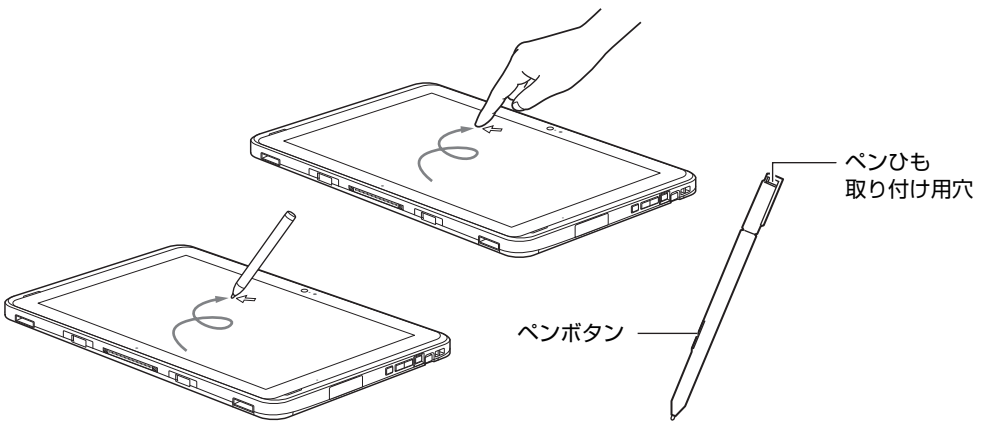
1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

本タブレットのタッチパネルは、タッチ入力と専用ペンでの入力*に対応しています。タッチ入力では指で画面をタッチするだけで、専用ペンでの入力はペンを画面に近づけるだけで、マウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

＊ ARROWS Tab Q507/PB、ARROWS Tab Q507/P-SPはカスタムメイドで専用ペンを選択した場合のみ、専用ペンでの入力に対応しています。



POINT

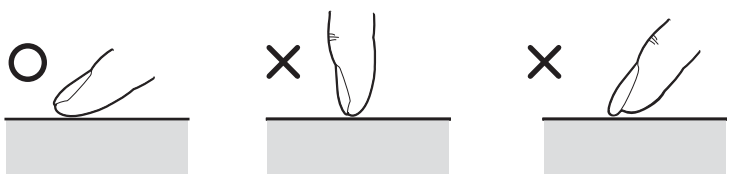
- 本タブレットのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。
- ペンボタンを押しながらペン先を画面に軽く押し付けると消しゴム機能となります。
  アプリによっては使用できない場合があります。

2.3.1 注意事項

- グレア処理されている液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面は指紋が付きにくい加工が施されています。
  このため、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を下にして置くと、滑りやすくなりますので、ご注意ください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面をこすると帯電する場合がありますので、ご注意ください。
- 次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。
  ・表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力を加えたとき
  ・タブレット本体の側面や裏面を押したり、強い圧力を加えたりしたとき
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- ペンの内部に精密部品が内蔵されています。ペンを落とすなど強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

■ 指による操作

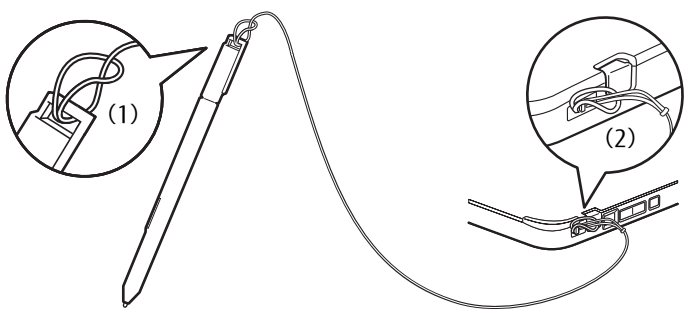
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



- 同時にペンで操作したり、ペンを手に持って操作したりしないでください。

■ ペンによる操作

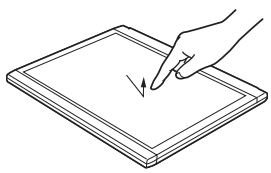
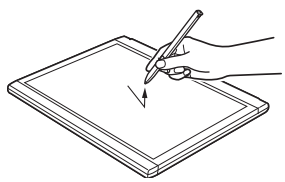
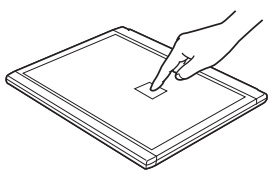
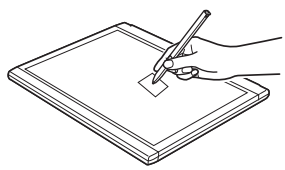
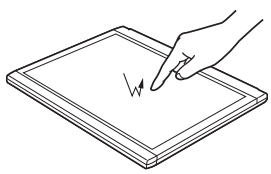
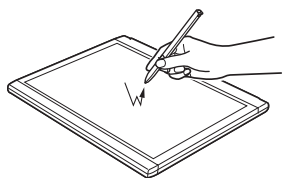
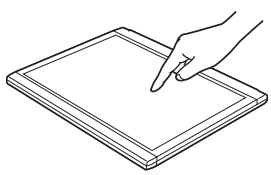
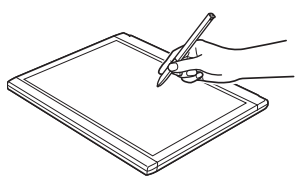
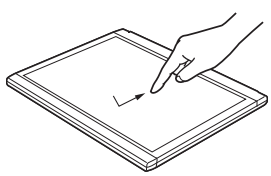
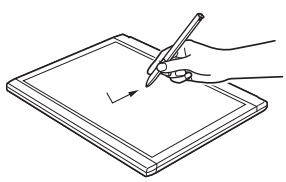
- 画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、一時的にペンが使えなくなることがあります。ペンをいったん画面から放すと、その後は使えるようになります。
- ペンで画面を押すと、ペン先の周囲に影が発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ペンの紛失や落下による故障を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとタブレット本体をつないでください。
  ペンひもは、必ず（1）ペン側（2）タブレット本体側の順に取り付けてください。



- ペン先を机などに押し付けるなど、強い衝撃を与えないでください。破損の原因となります。
- ペン先（芯）部は消耗品です。長期間使用すると、ペン先がすり減ってきます。
- ペン先（芯）は消耗品のため、使用しているうちにペン先がすり減ってきます。（筆圧やタップ時の力が強い場合には、消耗はより早くなります。）
  1mm程度まですり減ってきたら、芯の交換をしてください。
  ペン先の交換方法は、「2.3.6 ペン先を交換する」（→P.36）をご覧ください。
- タップや長押しなどの画面操作時は、力を入れる必要はありません。力を入れすぎると、ペン先がつぶれペン先の早期消耗の原因となります。また、ペン本体およびタッチパネルの故障の原因となります。
- 交換用ペン先の購入および、ペンを破損したり紛失したりしたときは、本タブレットに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- ペンを使用しないときは、ペンホルダーに戻してください。
- 六角形スタイラスペンの場合は、タブレット本体のペンホルダーに格納することはできません。

2.3.2　基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指またはペン先で操作します。
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	ペンの操作
タップ	画面を1回軽くたたきます。 	画面を1回押して離します。 
長押し	画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。 	画面を長押しします。 
ダブルタップ	画面を素早く2回連続して軽くたたきます。 	画面を素早く2回連続で押して離します。 
ポイント	画面に軽く触れます。 	画面に近づけるか軽く触れます。 
ドラッグ	画面に軽く押しつけながらなぞります。 	画面に軽く押しつけながらなぞります。 

2.3.3　文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。

■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない状態では「タッチ キーボード」は使用できません。

■ 「タッチ キーボード」 を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。
「タッチ キーボード」を表示するには、テキスト入力領域をタップします。

POINT

- 「タッチ キーボード」が表示されない場合は、次の操作を行ってください。
  1. デスクトップ画面のタスクバーを長押しします。
  2. Windows 10の場合は「タッチキーボードボタンを表示」をタップ、Windows 8.1の場合は「ツール バー」→「タッチ キーボード」の順にタップします。
     タスクバーに「キーボード」のアイコンが表示されます。
  3. 「キーボード」のアイコンをタップします。
     画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

Windows 8.1の場合は、詳しい使い方についてヘルプをご覧ください。

- ヘルプの表示方法
  アプリ画面（→P.10）で「ヘルプとサポート」をタップしてWindowsのヘルプを表示し、「ヘルプを参照」→「はじめに」→「タッチキーボードを使用する方法」の順にタップします。

2.3.4　キャリブレーション

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とタブレットが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

POINT

- キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

■ 指によるキャリブレーション

1 コントロールパネルの「タブレット PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」

2 「画面」タブの「調整」をタップします。

3 「タッチ入力」をタップします。

4 画面の「＋」マークの交点を正確に指でタップします。
「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

POINT

- 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。

5 同様に「＋」マークを順番にタップします。

6 「はい」をタップします。

POINT

- キャリブレーションを行ってずれが生じてしまった場合は、次の手順でご購入時の設定に戻すことができます。
  1. コントロールパネルの「タブレット PC設定」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」
  2. 「画面」タブで、「リセット」をタップします。
     ご購入時の設定に戻ります。

■ ペンによるキャリブレーション

1 コントロールパネルの「タブレット PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」

2 「画面」タブの「調整」をタップします。

3 「ペン入力」をタップします。

4 画面の「＋」マークの交点を正確にペンでタップします。
「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

5 同様に「＋」マークを順番にタップします。

6 「OK」をタップします。

POINT

- 「タブレット PC設定」の「画面」タブにある「リセット」をタップしてもリセットはできません。

2.3.5　タッチパネルの設定を変更する

ペンやペンボタンの機能は、「ペンタブレットのプロパティ」で設定します。

1 コントロールパネルの「ペンタブレットのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「ペンタブレットのプロパティ」

2 「ペン」タブをタップし、設定を変更します。

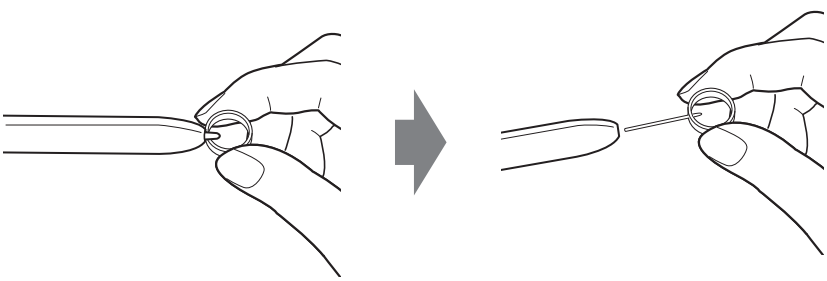
2.3.6　ペン先を交換する

ペン先が破損したり、滑りが悪くなったりしたときは、次の手順に従って新しいペン先と交換してください。

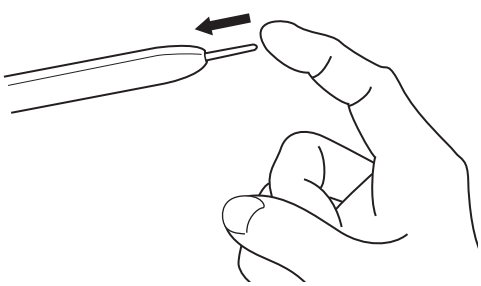
POINT

- ペン先の交換には、別売の交換用ペン先をご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

1 交換用ペン先に添付のクリップでペン先をはさみ、ペン本体から外れるまでまっすぐ引き抜きます。



2 新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。



2.4 ディスプレイ

ここでは、本タブレットの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.42）をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 明るさを調整する

本タブレットの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。
自動調整の機能が有効の場合、手動での調整はできません。

■ 自動的に調整する

ご購入時は、明るさを自動的に調整する機能が有効（ON）に設定されています。
この機能の有効（ON）／無効（OFF）の切り替えは次の手順で行います。

1. ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2. 「画面の明るさ自動調整」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

重 要

- 照度センサーが周囲の明るさを検知します。照度センサーをテープやシールなどでふさがないでください。

■ 手動で調整する

□スライダーで変更する （Windows 10）

1 「スタート」ボタン→ (設定）の順にタップします。

2 「システム」をタップします。

3 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をタップします。

4 画面右側のメニューで「明るさレベルの調整」のスライダーを左右に動かします。
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- アクションセンター（→P.9）でも明るさを調整できます。
  タイルをタップするごとに、明るさのレベルが変わります。

□スライダーで変更する （Windows 8.1）

1 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。

2 「ディスプレイ」をタップします。

3 スライダーを上下に動かします。
スライダーを上に動かすと明るく、下に動かすと暗くなります。

□キーボードで明るさを変更する

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

明るくする	【Fn】＋【F7】キーを押す
暗くする	【Fn】＋【F6】キーを押す

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□ 「電源オプション」で変更する」（→P.39）をご覧ください。
画面左上部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

□「Windowsモビリティセンター」 で変更する

1 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）を起動します。

2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□ 「電源オプション」で変更する」（→P.39）をご覧ください。

□「電源オプション」 で変更する

現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。

3 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

2.4.3　解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1 次の操作を行います。
●Windows 10の場合
1. デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 8.1の場合
1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。

3 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.153）をご覧ください。

4 「適用」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.4　拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1. デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。

3 「スケーリング」を設定します。

・縦横比を保持する
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
・全画面のスケールにする
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
・画像を中央揃えにする
画面は拡大されずに中央に表示されます。
・ディスプレイ・スケーリングを保持する
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をタップします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.5　ディスプレイ省電力テクノロジー

「ディスプレイ省電力テクノロジー」は、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリ駆動時間を延ばす機能です。

■ 注意事項

- バッテリ駆動時のみ動作します。
  ご購入時は次のように設定されています。
  ・ディスプレイ省電力テクノロジー：「オン」
  ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電力テクノロジーが動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
  ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
  ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ ディスプレイ省電力テクノロジーを設定する

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1. デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「電源」アイコンをタップします。

3 「ディスプレイ省電力テクノロジー」を設定します。

・動作させる場合は、「有効」をタップし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリ駆動時間が優先される設定になります。
・動作させない場合は、「無効」をタップするか、「最高画質」に設定します。

4 「適用」をタップします。

「適用」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
この場合は、画面の指示に従って操作してください。

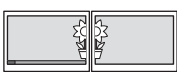
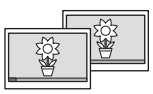
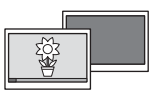
5 画面右上の「閉じる」をタップして、画面を閉じます。

2.5 マルチディスプレイ機能

本タブレットに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.6.2 ディスプレイコネクタ」（→P.86）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 （ただしWindows 8.1の場合は、通知領域のアイコンと日時の表示はプライマリディスプレイにのみ表示されます。） それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本タブレットの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 別売のVGA変換アダプタをご使用になるときは、VGA変換アダプタと外部ディスプテイを接続してから、タブレット本体に接続してください。
  タブレット本体にVGA変換アダプタのみを接続すると、解像度が1024×768に固定されます。
- クレードルのアナログディスプレイコネクタとHDMI出力端子は、同時に使用できません。

2.5.3　マルチディスプレイ機能を設定する

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1. デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。

3 画面左側のメニューで「マルチ・ディスプレイ」をタップします。

4 「ディスプレイ・モードの選択」を設定します。

・シングル表示にする場合、「シングル・ディスプレイ」を選択します。
・クローン表示にする場合、「クローン・ディスプレイ」を選択します。
・拡張デスクトップにする場合、「拡張デスクトップ」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。

5 「アクティブ・ディスプレイの選択」を選択します。

・接続されているディスプレイの名前が表示されており、タップして別のディスプレイの名前を選択することで、順番を変更できます。
・一番上がプライマリディスプレイです。
・3つのディスプレイを表示できる状態で、「なし」を選択すると、2つのディスプレイ表示に設定できます。

6 「適用」をタップします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

7 必要に応じて「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。

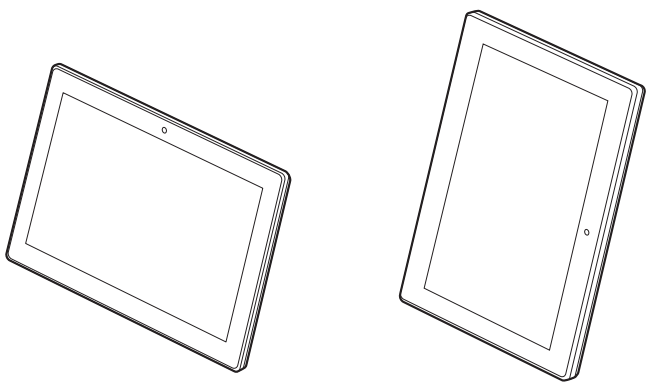
1. 画面左側のメニューで「一般設定」をタップします。
2. 「ディスプレイの選択」から設定を変更するディスプレイを選択します。

「解像度」、「リフレッシュ・レート」の設定方法は「2.4.3 解像度を変更する」（→P.39）をご覧ください。

設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.153）をご覧ください。

2.6 画面表示の回転

本タブレットは横向きでも縦向きでも操作できます。画面表示の向きを手動で変更したり（→P.45）、タブレット本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます（→P.46）。



2.6.1 注意事項

- 画面表示の向きの設定は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 表示するディスプレイを切り替えたときの画面表示について
  - ・クローン表示の場合、液晶ディスプレイ、外付けディスプレイともに、横向き表示固定になります。タブレット本体の画面表示の回転はできません。
  - ・拡張デスクトップ表示の場合、液晶ディスプレイは縦向き表示固定に、外付けディスプレイは横向き表示固定になります。タブレット本体の画面表示の回転はできません。
  - ・外部ディスプレイのみで表示した場合、タブレット本体の向きを変えるように動かすと、外部ディスプレイの表示も回転します。

2.6.2　手動で画面表示の向きを変える

タブレット本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

■ Windowsの機能で画面表示の向きを変更する

□Windows 10の場合

1 「スタート」ボタン→ (設定）の順にタップします。

2 「システム」をタップします。

3 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をタップします。

4 画面右側の「向き」で変更したい向きを選択します。

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

5 「適用する」をタップします。
「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されます。

6 「変更の維持」をタップします。

□Windows 8.1の場合

1 スタート画面で「デスクトップ」をタップします。

2 デスクトップ画面で長押しし、「画像の解像度」をタップします。

3 「向き」で変更したい向きを選択します。

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

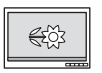
4 「適用」をタップします。

5 「変更を維持する」をタップします。

■ ホットキーで画面表示の向きを変更する

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

カーソルキーの矢印の向きが画面表示の上になります。

ホットキー	【Ctrl】＋【Alt】＋【↑】	【Ctrl】＋【Alt】＋【←】	【Ctrl】＋【Alt】＋【↓】	【Ctrl】＋【Alt】＋【→】
画面表示の向き	0°	90°	180°	270° 

□ホットキーの設定を変更する

ホットキーの設定を変更するには、次の操作を行います。

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1. デスクトップで長押しし、「グラフィックス・オプション」→「ホットキー」の順にタップします。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で長押しし、「グラフィックス・オプション」→「ホットキー」の順にタップします。

2 「有効」または「無効」を選択します。

2.6.3　状態が変わったときの動作を設定する

■ ステータスパネルスイッチで設定を変更する

タブレット本体を傾けたときに、傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きが変更されるように設定できます。

1 ショートカットボタンを押します。

「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 「自動回転」ボタンをタップします。

ボタンを押すたびに、デスクトップ画面左上部に「自動回転オフ」「自動回転オン」と表示され、タブレット本体を傾けたときの画面の自動回転のオン／オフが切り替わります。

POINT

- クレードルまたはスリムキーボード／軽量スリムキーボードを接続している場合、自動回転はオフになり、オン／オフは切り替えられません。

2.7 サウンド

ここでは、音量の調節方法などについて説明しています。
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.6.4 オーディオ端子」（→ P.88）をご覧ください。

2.7.1 全体の再生音量を調節する

タブレット本体のスピーカーや、本タブレットに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

■ タブレット本体

□ボリュームダウン／ボリュームアップボタンで変更する

1. ボリュームダウンボタン、またはボリュームアップボタンを押します。
   画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。

□通知領域アイコンで変更する

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（または）をタップします。
2. スライダーで音量を調節します。

■ キーボード

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

上げる	【Fn】＋【F9】キーを押す
下げる	【Fn】＋【F8】キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】＋【F3】キーを押す

画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。

2.7.2　ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1 音量を調節するソフトウェアを起動します。

2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（または）を長押しし、「音量ミキサーを開く」をタップします。

3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.7.3　機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.48）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.49）をご覧ください。

1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.6.4 オーディオ端子」（→P.88）

2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（または）を長押しし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。

3 音量を調節したい機器を長押しし、「プロパティ」をタップします。

4 「レベル」タブをタップします。

5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Intel SST Audio Device (WDM)	タブレット本体のスピーカーや本タブレットに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
ヘッドホン	Realtek USB Audio	クレードル接続時のみ表示 クレードルに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	HDMI出力端子に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1 ：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	Intel SST Audio Device (WDM)	タブレット本体のマイクから入力される音の録音音量
マイク	Realtec USB Audio	クレードル接続時のみ表示 クレードルのマイクから入力される音の録音音量

2.7.4　既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（または）を長押しし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。

3 「OK」をタップします。

2.8 省電力

ここでは、タブレットを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.8.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。
スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではフラッシュメモリにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す[注]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.52）
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 ・Windows 10の場合 1.「スタート」ボタン→ ⏻（電源）の順にタップし、メニューを選択します。 ・Windows 8.1の場合 1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。 2.「電源」をタップし、メニューを選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.52）

注 ：電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本タブレットの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。

2.8.2　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてタブレット本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、タブレット本体の電源を切ります。

□Windowsを終了する

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1.「スタート」ボタン→ (電源）の順にタップします。

●Windows 8.1の場合

1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2.「電源」をタップします。

2 「シャットダウン」をタップします。

□完全に電源を切る

重 要

▸ 次のような場合は、ここで説明している手順でタブレットの電源を切ってください。
・BIOS セットアップを起動する
・診断プログラムを使用する
・トラブル解決ナビを起動する（Windows 8.1）
・フラッシュメモリデータ消去

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1.「スタート」ボタン→ (設定）の順にタップします。
2.「更新とセキュリティ」をタップします。

●Windows 8.1の場合

1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2.「PC設定の変更」をタップします。
3. 画面左側のメニューで「保守と管理」をタップします。

2 画面左側のメニューで「回復」をタップします。

3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をタップします。

4 「PCの電源を切る」をタップします。

2.8.3　本タブレットの節電機能

本タブレットには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるタブレットの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	タブレットの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定（→P.52） タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—
ステータスパネルスイッチ（→P.59） タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—

POINT

- ステータスパネルスイッチで省電力モードの切り替えを行います。
  詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.59）をご覧ください。

2.8.4　省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

■ 電源プランの設定を変更する

1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
2. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
3. 「詳細な電源設定の変更」をタップします。
4. リストから項目を選択し、設定を変更します。

   POINT

   - 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。
5. 「OK」をタップします。

   POINT

   - 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をタップし、メッセージに従って操作します。

2.9 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本タブレットを使用する方法や注意事項について説明しています。
バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

■ バッテリで運用するとき

- 本タブレットの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.54）をご覧ください。
- ご購入直後や修理直後、まれにバッテリ残量が正しく表示されない場合がありますが、故障ではありませんのでそのままお使いください。バッテリの放電をした後、充電完了まで充電することで自動的に補正され正しい値になります。
- 本タブレットの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本タブレットを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリ駆動時間が長くならない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.59）をご覧ください。
- 「バッテリ残量が低下しています。充電してください。30秒後にシャットダウンします。」というメッセージが表示された場合は、しばらく充電してから再度電源を入れてください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲やタブレット本体の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。また、ACアダプタを接続している場合も、タブレット本体の使用状況によりバッテリ残量が減る場合があります。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- タブレット本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。

2.9.2　バッテリを充電する

1 タブレット本体にACアダプタを接続します。
充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（→P.17）で確認できます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
オレンジ色	充電中
消灯	・充電完了 ・ACアダプタが接続されていない

POINT

- バッテリを保護するため、バッテリの残量が95%以上の場合は充電は始まりません。
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.9.3　バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（ ）をタップすると確認できます。
なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリの特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

2.9.4　バッテリの状態を確認する

バッテリの情報の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

1 次の操作を行います。

●Windows 10の場合

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にタップします。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」をタップします。

2 「バッテリーの情報」をタップします。
「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

重 要

- 本タブレットを修理した場合、本情報がリセットされることがあります。修理に出す前にサイクル数をメモしておいてください。
  修理後にサイクル数が0に戻っていた場合は、メモしておいた回数を足した数をサイクル数の目安にしてください。

2.10 通信

ここでは本タブレットの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。

POINT

- 本タブレットには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  ・Windows 10の場合
  1.「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」の順にタップします。
  ・Windows 8.1の場合
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Plugfree NETWORK」の「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」をタップします。

2.10.1 有線LAN

対 象　クレードル使用時

重 要

- 有線LANでネットワークに接続する場合は、タブレット本体とクレードルを接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.6.5 LANコネクタ」（→P.88）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

2.10.2　無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「8.4 無線LAN」（→P.156）をご覧ください。
本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク㊣および5.2／5.3GHz帯の屋外使用についての注意文を画面に表示できます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.166）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

1 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」

2 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
本タブレットに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.10.3　無線WAN

対 象　無線WANモデル

nanoSIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
nanoSIMカードを取り付ける方法については、「3.4 nanoSIMカード」（→P.81）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.10.4　Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。

2.10.5　無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。
電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。

1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 「ワイヤレスオフモード」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

POINT

- 無線デバイスの発信／停止を個別に切り替えることもできます。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.59）をご覧ください。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

1 次の操作を行います。
●Windows 10の場合
1.「スタート」ボタン→ （設定）の順にタップします。
2.「ネットワークとインターネット」をタップします。
●Windows 8.1の場合
1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2.「PC設定の変更」をタップします。

2 画面左側のメニューで「機内モード」をタップします。

3 画面右側の『機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

重 要

- 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
  1. 次の操作を行います。
     ●Windows 10の場合
     1.「スタート」ボタン→ (設定）の順にタップします。
     2.「デバイス」をタップします。
     ●Windows 8.1の場合
     1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
     2.「PC設定の変更」をタップします。
     3. 画面左側のメニューで「PCとデバイス」をタップします。
  2. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をタップします。
  3. 画面右側のメニューで設定を切り替えます。
     ・「オン」：電波を発信する
     ・「オフ」：電波を停止する
- Windows 10の場合、特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止することができます。ただし、無線WANについてはアクションセンターから発信／停止することができませんのでご注意ください。
  1. 通知領域の「アクションセンター」アイコンをタップし、アクションセンターを表示します。
  2. 発信／停止したい機能をタップします。
     -「利用可能」…無線LANを発信／停止したいときにタップします。
     -「Bluetooth」…Bluetoothを発信／停止したいときにタップします。
     -「機内モード」…タップすると機内モードのON/OFFを切り替えることができます。

2.11　ステータスパネルスイッチ

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、タブレットを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。

2.11.1　注意事項

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
  ・低
  ・中
  このような場合には、「各デバイスの状態の切り替え」で「CPUパフォーマンス」を次の設定にしてください。
  ・高
  ・「モード切り替え設定」で、CPUパフォーマンスのチェックを外す（→P.61）
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの使用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。
  また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをタブレットに装着してください。
- Windows へサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。
  各デバイスの状態の切り替えは、Windows へサインインした後、しばらくしてから実行してください。

2.11.2　ステータスパネルスイッチを起動する

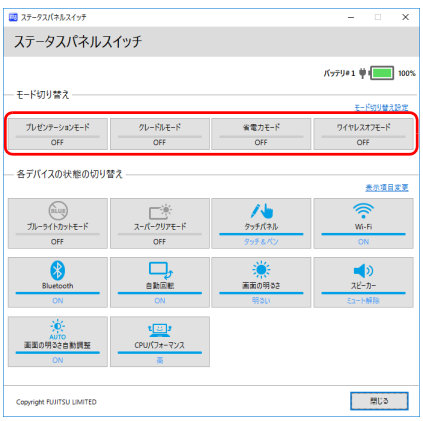
1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

重 要

- ショートカットボタンの動作を「Windowsボタン」に設定している場合
  ショートカットボタンを押しても「ステータスパネルスイッチ」は起動しません。
  次の操作で起動してください。
  ・Windows 10の場合
  1.「スタート」ボタン→「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」→「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。
  ・Windows 8.1の場合
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」の「ステータスパネルスイッチ」をタップします。

2.11.3　ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え」から使用したいモードのボタンをタップします。
選択したモードに切り替わります。



設定モード	
プレゼンテーションモード	タブレットを使ってプレゼンテーションなどを行うのに適したモードです。画面の明るさが最大になり、画面の明るさ自動調整は「OFF」になります。 また、時間経過によるスリープ、スクリーンセーバーなどが抑止されます。
クレードルモード	本体をクレードルに取り付けて使用するときのモードです。CPUパフォーマンスが高くなります。 ご購入時の設定では、クレードルに本体を取り付けると自動的にクレードルモードが「ON」になり、クレードルから本体を取り外すと自動的にクレードルモードが「OFF」になります。
省電力モード	画面の明るさやCPU のパフォーマンスを下げることで、タブレットの消費電力を抑えることができるモードです。
ワイヤレスオフモード	無線WAN、無線LAN やBluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

POINT

- 「各デバイスの状態の切り替え」では、それぞれの機能のボタンをタップすると、個別に状態を変更できます。
  ただし、「ワイヤレスオフモード」が「ON」の場合、無線WANの状態の切り替えはできません。
- 「表示項目変更」をタップすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更できます。
- 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- スーパークリアモードは、屋外など明るい場所では自動的に画面の明るさを最大にします。画面の明るさを調整したい場合は、スーパークリアモードを「OFF」にしてください。

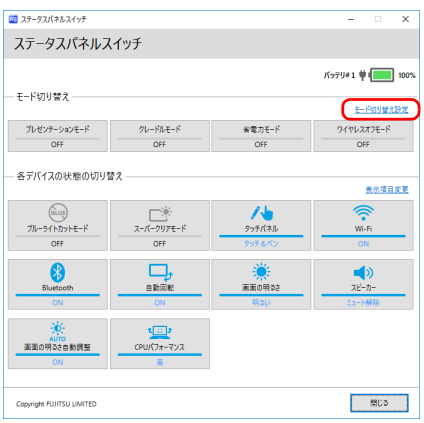
重 要

- 「各デバイスの状態の切り替え」の「タッチパネル」を「ペンのみ」に設定している場合は、指での操作はできません。ペンを紛失してしまうと操作ができなくなってしまいますのでご注意ください。ペンの紛失を防ぐためにも、必ず添付のペンひもでペンとタブレット本体をつないで使用してください。
  万が一紛失してしまった場合は、次のいずれかの操作で「タッチ＆ペン」に設定し直してください。
  ・マウスを接続して操作してください。
  ・スリムキーボード／軽量スリムキーボードをお使いの場合は、フラットポイントで操作してください。
  ・ステータスパネルスイッチを起動した後に、再度ショートカットボタンを押すと「タッチ＆ペン」に切り替えることができます。

2.11.4　各モードの設定を変更する

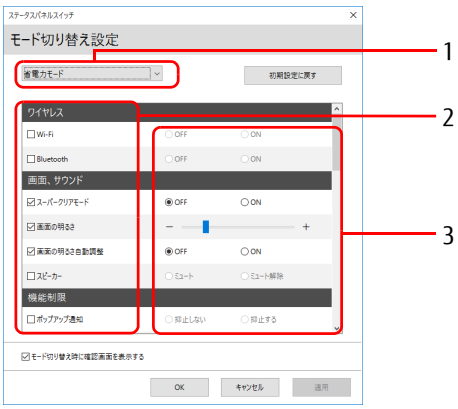
各モードで制御するデバイスの選択や、各デバイスの状態を個別に変更できます。

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をタップします。



2 設定を変更します。

1. モードを選択します。
2. 制御するデバイスを選択します。
3. デバイスの状態や値を設定します。



3 「適用」をタップします。

4 「OK」をタップします。

2.11.5　ワンタッチキャプチャを利用する

ステータスパネルスイッチの機能のひとつ、ワンタッチキャプチャについて説明します。

重 要

- ワンタッチキャプチャは、ご購入時の状態でお使いになれます。
- ショートカットボタンの動作を「Windowsボタン」に設定している場合は、ショートカットボタンを長押ししてもワンタッチキャプチャは起動しません。
- 「ステータスパネルスイッチ」をアンインストールするとお使いになれません。
- Windows 8.1の場合は、Windowsを最新の状態にし「ステータスパネルスイッチ」と「ステータスパネルスイッチ機能アップデート」をインストールしてください。
  また、Windows ストア アプリ版OneNoteをインストールしておく必要もあります。

1 ショートカットボタンを長押しします。

・Windows 10の場合：Windows Ink ワークスペースの画面スケッチが起動します。
・Windows 8.1の場合：OneNoteが起動します。

2 キャプチャしたい範囲を選択します。（Windows 8.1の場合）

OneNoteの新しいページが開き、キャプチャした画面が表示されます。

2.12 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。

2.12.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

2.12.2 使用できるメモリーカード

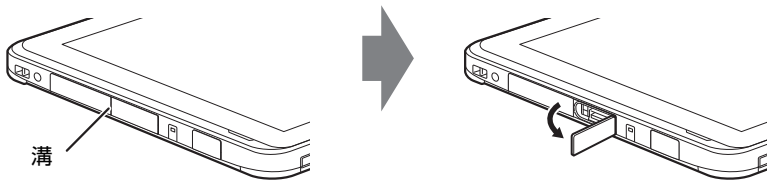
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード注	microSDカード	○
	microSDHCカード	○
	microSDXCカード	○

注 ：・著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

2.12.3　メモリーカードをセットする

1 溝に指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開けます。

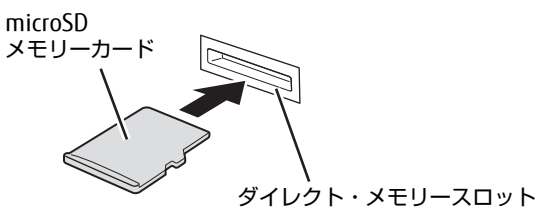


POINT

- カードスロットカバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

2 イラストのように、microSDメモリーカードをダイレクト・メモリースロット（→P.17）に差し込みます。

イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを上にした状態で挿入しています。
上段がダイレクト・メモリースロットです。



POINT

- メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをタップし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

3 カードスロットカバーを閉じます。

2.12.4　メモリーカードを取り出す

1 カードスロットカバーの溝に指をかけ、カードスロットカバーを開けます。

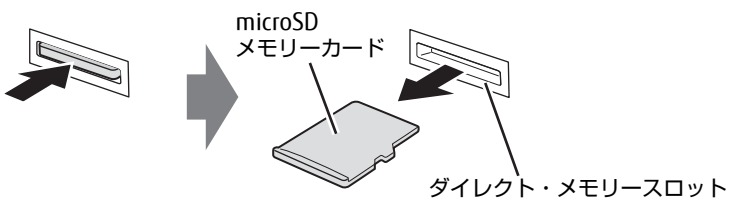
2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をタップします。

3 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。

4 microSDメモリーカードを一度押し、少し出てきたmicroSDメモリーカードを引き抜きます。

重 要

- メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



5 カードスロットカバーを閉じます。

2.13 セキュリティチップ （TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリに残さないため、フラッシュメモリが盗まれても暗号を解析できません。

POINT

- Windows 10の場合は、チップセット内蔵のセキュリティ機能（Intel® PTT）を使用することができます。

2.14 防水／防塵性能

対 象　防水対応機種

端子カバーとスロットカバーをしっかりと閉じた状態で、IP5Xの防塵性能、IPX4、IPX5、IPX7、IPX8の防水性能を有しています。

・IP5Xとは、粉塵の侵入を防止、若干の粉塵の侵入があってもタブレットとしての機能を有することを意味します。
・IPX4 とは、飛沫に対する保護を規定しています。散水ノズルを使用し、0.07L／分の水を最低5分間散水する条件であらゆる方向から散水しても、タブレットとしての機能を有することを意味します。
・IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L／分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、タブレットとしての機能を有することを意味します。
・IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.0mのところに本タブレットを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにタブレットとしての機能を有することを意味します。
・IPX8とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところに本タブレットを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにタブレットとしての機能を有することを意味します。

2.14.1 防水性能でできること

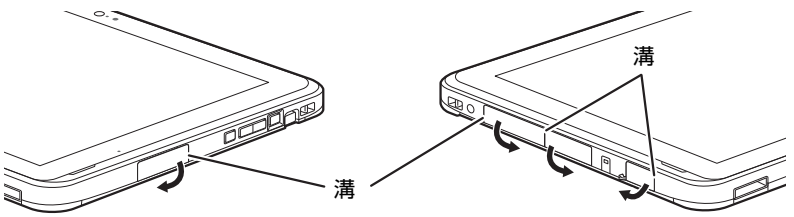
- 1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
  ・手が濡れているときやタブレットに水滴がついているときには、端子カバーやスロットカバーの開閉はしないでください。
- 水深1.5mの水の中に沈めることができます。
  ・水中で操作しないでください。
  ・水につけるときは、30分以内としてください。
  ・プールの水がかかったり、プールの水に浸けたりした場合は、洗い流して水抜きしてください（→P.70）。
- お風呂場で使用できます。
  ・湯船にはつけないでください。また、お湯の中で使用しないでください。故障の原因となります。万が一、湯船に落としてしまった場合には、すぐに拾って水抜きしてください（→P.70）。
  ・温泉や石けん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対につけないでください。万が一、水道水以外が付着してしまった場合は、ただちに洗い流して水抜きしてください（→P.70）。
  ・お風呂場では、温度は5℃～35℃、湿度は20%～80%RH、使用時間は2時間以内の範囲でお使いください。
  ・急激な温度変化は結露の原因となります。寒い所から暖かいお風呂などに本タブレットを持ち込むときは、本タブレットが常温になるまで待ってください。
  ・蛇口やシャワーから水やお湯などをかけないでください。

- 洗面器などに張った静水につけて、ゆすりながら汚れを洗い流すことができます。
  ・洗うときは、端子カバーとスロットカバーが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず洗ってください。

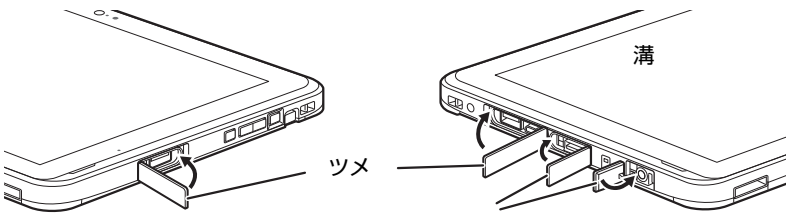
2.14.2　防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、つけたりしないでください。
- microSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指を掛けてすこし引き出し、矢印の方向にカバーを開けてください。



また、microSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように動かしてカバーを閉じ、ツメを押し込んでカバーの浮きがないことを確認してください。



- 端子カバーとスロットカバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）がはさまると、浸水の原因となります。
- カバーが閉じにくい場合は、カバーの両端を同時に押し込んでください。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- 端子カバー、スロットカバーのゴムパッキンは防水性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷付けたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
- 端子カバーのアーム部が外れる場合があります。これはお客様が端子カバーを交換できるよう取り外し可能な仕様になっているためです。端子カバーが外れた場合は、カバー穴にアーム部を挿入してください。

POINT

- 防水性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。
  部品の交換はタブレットをお預かりして有料にて承ります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

2.14.3　防水性能をお使いになるうえでの注意

次のような行為は行わないでください。

- 石けん、洗剤、または入浴剤をつける
- ブラシやスポンジで洗う
- 洗濯機で洗う
- 強すぎる水流を当てる
- 海水につける
- 温泉で使う
- 砂や泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

- 付属品は防水性能を有していません。クレードルや専用キーボードにタブレットを差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- 防水性能以上の強い水流（例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流）を直接当てないでください。本タブレットはIPX5の防水性能を有していますが、内部に水が入り、感電や電池の腐食などの原因となります。
- 熱湯につけたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 本タブレットを水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水やプールの水につけるときは、30分以内としてください。
- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本タブレットは水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- スピーカーに水滴を残さないでください。動作不良となるおそれがあります。
- 端子カバーやスロットカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。
- 端子カバーやスロットカバーのゴムパッキンが傷付いたり、変形したりした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

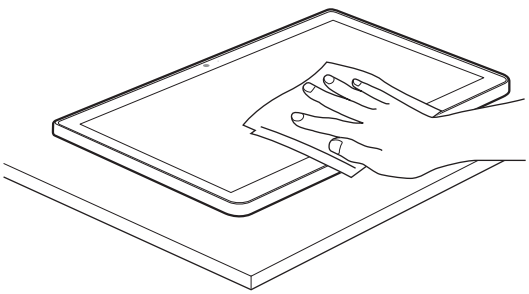
POINT

- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

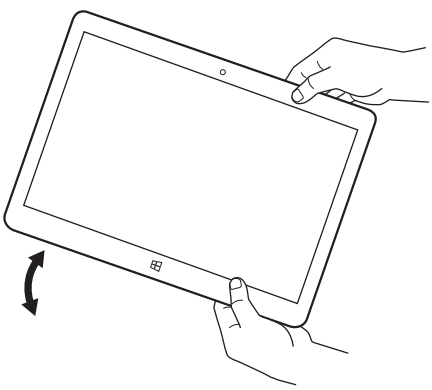
2.14.4　水抜き

本タブレットを水に濡らすと、拭き取れなかった水が後からもれてくることがありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

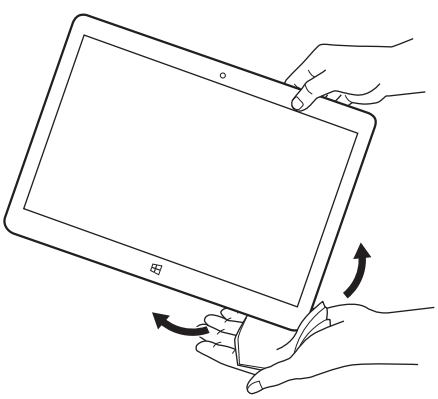
1 本タブレットを安定した台などに置き、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取ってください。



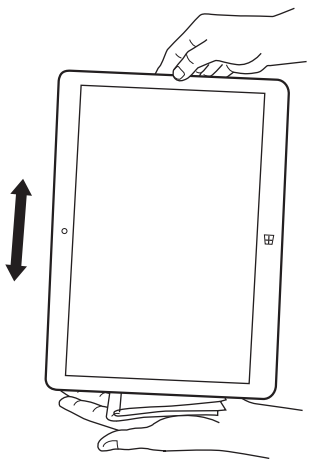
2 本タブレットのディスプレイ面を下にして、長い辺を両手でしっかりと持ち、10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。その後、180度持ち替えて同様に10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。



3 外周部の隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本タブレットの四隅を各10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



4 スピーカーなどの隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本タブレットを10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



5 本タブレットから出てきた水分を乾いた清潔な布などで充分に拭き取り、自然乾燥させてください。

・水を拭き取った後に本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。

・隙間にたまった水を綿棒などで直接拭き取らないでください。

2.14.5　充電のときの注意

充電時および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本タブレットが濡れていないか確認してください。本タブレットが濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水性能を有していません。
- 本タブレットが濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、付属のクレードルや専用キーボードに差し込んだり、端子カバーを開いたりしてください。
- 端子カバーを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとカバーを閉じてください。
  なお、外部接続端子からの浸水を防ぐため、クレードルを使用して充電することをお勧めします。
- ACアダプタやクレードル、専用キーボードは、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。
  火災や感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタやクレードル、専用キーボードに触れないでください。
  感電の原因となります。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に 73
3.2 クレードル 74
3.3 スリムキーボード／軽量スリムキーボード 77
3.4 nanoSIMカード 81
3.5 アタッチメント 84
3.6 コネクタの接続／取り外し 86

3.1　周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1　注意事項

- 本タブレットに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからタブレット本体の電源を入れ、タブレット本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 弊社純正品以外の周辺機器を接続する場合は、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用しない」に設定してください。

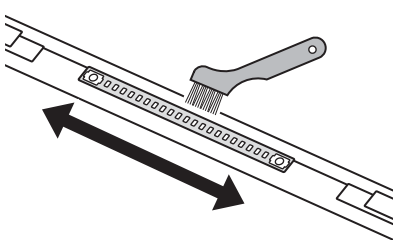
3.2 クレードル

対 象　クレードル使用時

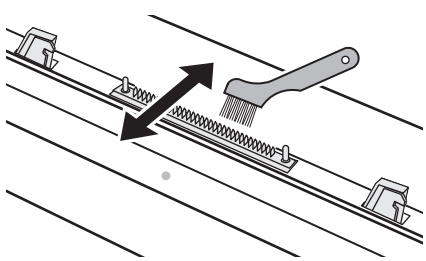
タブレット本体にクレードルを取り付けると、クレードルに搭載されているコネクタを使用できるようになります。
ここでは、クレードルの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.73）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1　注意事項

- クレードルを取り付けた状態では、本タブレットを持ち運ばないでください。タブレット本体およびクレードルのコネクタの破損の原因となります。
- クレードルのアナログディスプレイコネクタとHDMI出力端子に、同時にディスプレイを接続しないでください。
- タブレット本体とクレードルの接続コネクタ部が汚れていると、クレードルが使用できないことがあります。その場合はタブレット本体とクレードルの接続コネクタ部を、添付のブラシで清掃してから再度接続してください。
  またクレードル側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。



ドッキングコネクタ
（タブレット本体）



本体接続コネクタ（クレードル）

- クレードルをお使いになる場合は、必ずクレードルのDC-INコネクタにクレードル専用のACアダプタを接続してください。

3.2.2　クレードルを取り付ける

1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.86）。

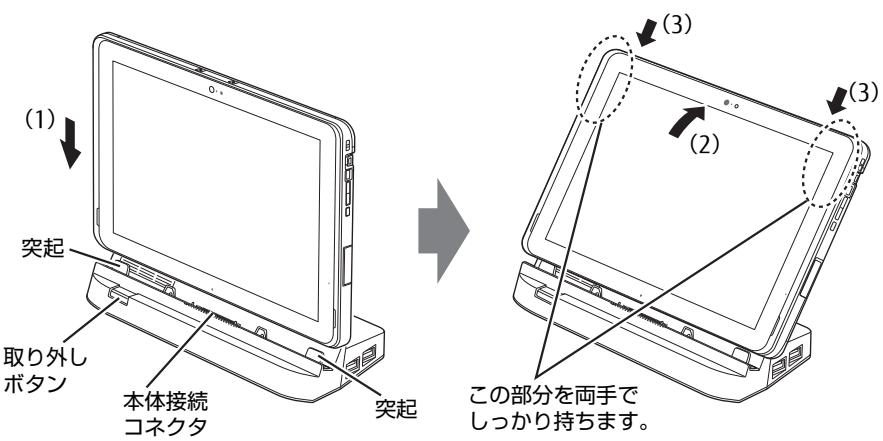
2 クレードルの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。

3 クレードルとタブレット本体を接続します。

1. タブレット本体の穴と、クレードルの突起（2ヶ所）の位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下ろします。
2. タブレット本体をクレードル側にやや倒すようにします。
3. イラストの点線部に両手を添えて矢印の方向に動かし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。
   挿入のしかたによっては、「カチッカチッ」と2回音がする場合があります。
4. 接続後タブレット本体を軽く引っ張り、きちんとロックされているか確認します。
   ロックされていない場合は、取り外しボタンを押してタブレット本体をいったん取り外してから、もう一度取り付けてください。

重 要

- クレードルとタブレット本体が並行になるように取り付けてください。
- 接続したクレードルとタブレット本体を取り外して、もう一度取り付ける場合は、2～3秒おいてから取り付けてください。
- 固くて水平な場所に置いてください。
  ソファーの上など、柔らかい場所に置くと本体が傾いてしまうことがあります。
- 周囲に物を置かないでください。
  周りに物があると、正しくセットできないことがあります。



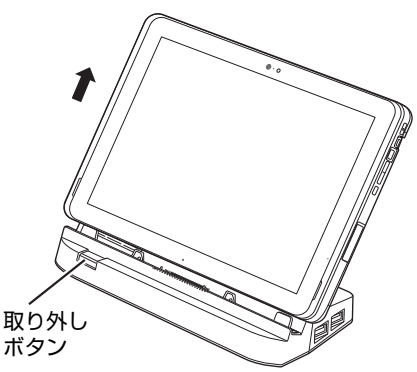
3.2.3　クレードルを取り外す

1 クレードルのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 タブレット本体をクレードルから取り外します。
本体に手を添えて、クレードルの取り外しボタンを押し、クレードルに沿ってタブレット本体を持ち上げます。

重 要

- クレードルの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。タブレット本体を持ち上げていると、クレードルの取り外しボタンが押せない場合があります。



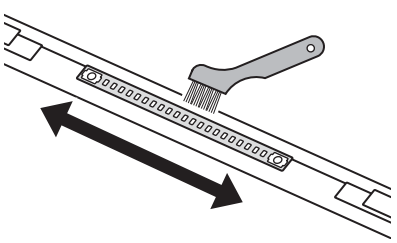
3.3 スリムキーボード／軽量スリムキーボード

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

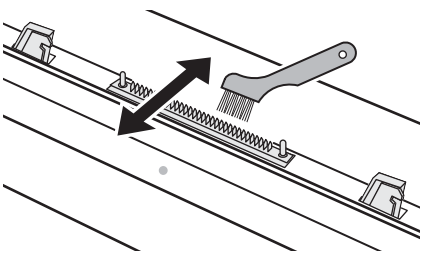
タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作できます。
ここでは、スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.73）をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- キーボードや本タブレットの液晶ディスプレイに砂ぼこりなどの汚れが付いた状態で、本体を閉じて持ち運ばないでください。液晶ディスプレイに傷が付く原因となります。
「6章　お手入れ」（→P.111）をご覧になり、汚れを取り除いてください。
- タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードの接続コネクタ部が汚れていると、スリムキーボード／軽量スリムキーボードが使用できないことがあります。その場合はタブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードの接続コネクタ部を、添付のブラシで清掃してから再度接続してください。
またスリムキーボード／軽量スリムキーボード側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。



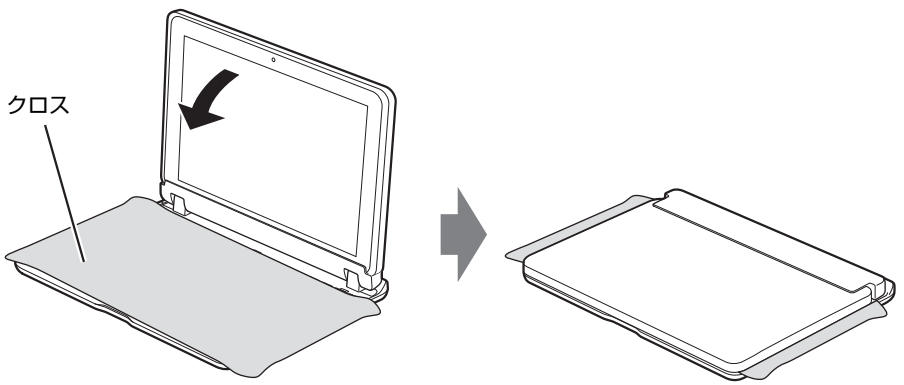
ドッキングコネクタ
（タブレット本体）



本体接続コネクタ
（スリムキーボード／軽量スリムキーボード）

- タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードの角度によっては、スリムキーボード／軽量スリムキーボードの手前が浮いたり、後ろに倒れる場合があります。
タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードは、開きすぎないように注意してお使いください。
- タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードを開くときは、机の上など平らな場所に置いてください。
タブレット本体の中央に指をかけ、持ち上げるときに、スリムキーボード／軽量スリムキーボードの中央を押さえてください。スリムキーボード／軽量スリムキーボードの端を押さえながら開くと、スリムキーボード／軽量スリムキーボードが変形するおそれがあります。

- スリムキーボード／軽量スリムキーボードの装着時、タブレット本体は180°まで開かず、途中で止まる仕様になっています。途中で止まったら、それ以上無理に開かないでください。破損の原因になります。
- ほこりや異物などによって液晶ディスプレイ（タッチパネル）が傷つくことを防止するため、スリムキーボード／軽量スリムキーボードにクロスを添付しています。タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードを取り付けて本体を閉じるときには、タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードの間にクロスを挟んで使用してください。
  1. タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードの間にクロスを置き、タブレット本体を閉じます。



3.3.2　スリムキーボード／軽量スリムキーボードを取り付ける

1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.86）。

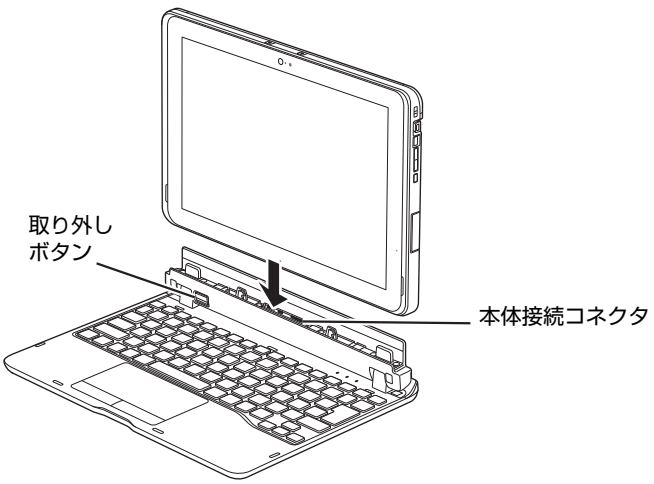
2 スリムキーボード／軽量スリムキーボードの本体接続コネクタ部を90°に開きます。

3 スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。

4 スリムキーボード／軽量スリムキーボードとタブレット本体を接続します。
本体接続コネクタと、タブレット本体のドッキングコネクタ（→P.15）の位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下ろし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。
挿入のしかたによっては、「カチッカチッ」と2回音がする場合があります。

5 接続後タブレット本体を軽く引っ張り、きちんとロックされているか確認します。

ロックされていない場合は、取り外しボタンを押してタブレット本体をいったん取り外してから、もう一度取り付けてください。



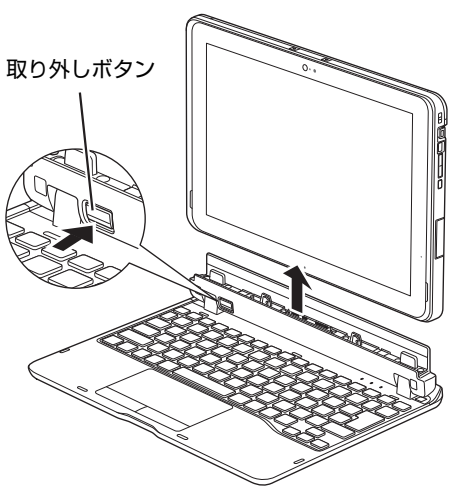
3.3.3　スリムキーボード／軽量スリムキーボードを取り外す

1 タブレット本体とスリムキーボード／軽量スリムキーボードを90° に開きます。

2 スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り外しボタンを押し、タブレット本体をまっすぐ持ち上げます。

重 要

- スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。タブレット本体を持ち上げていると、スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り外しボタンが押せない場合があります。
- スリムキーボード／軽量スリムキーボードの取り外しは、キーを押さないように注意してください。



3.4 nanoSIMカード

対 象　無線WANモデル

本タブレットのnanoSIMカードスロットにnanoSIMカードを取り付けると、無線WANによる通信ができるようになります。
ここでは、nanoSIMカードの取り付け、取り外しについて説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.73）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- nanoSIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。

重 要

- nanoSIMカードを取り付ける、または取り外すときは、必ずタブレット本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

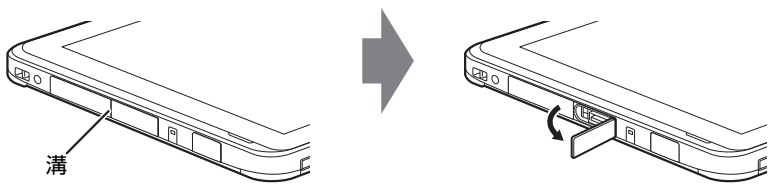
3.4.2　nanoSIMカードを取り付ける

重 要

- カードトレーの取り扱いについては、充分にご注意ください。
  - ・nanoSIMカードは、必ずカードトレーにセットして挿入してください。nanoSIMカードを直接タブレット本体に差し込んでも認識できません。また、nanoSIMカードが取り外せなくなるなど、タブレット本体の故障の原因となります。
  - ・変形したカードトレーを挿入すると、通常のnanoSIMカードを認識できない場合があります。
  - ・カードトレーは紛失しないように注意してください。

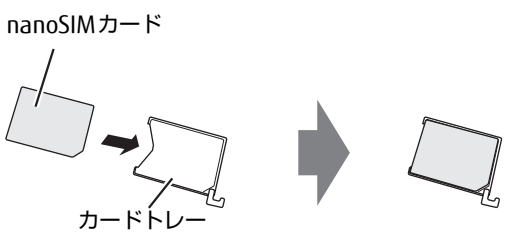
1 タブレット本体の電源を切ります。

2 溝に指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開けます。

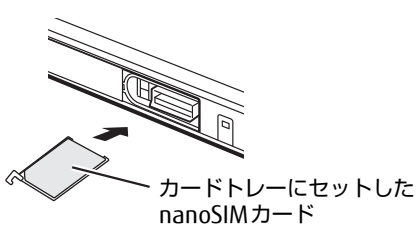


3 カードトレーのツメをつかみ引き出します。

4 イラストのように、nanoSIMカードをカードトレーにセットします。



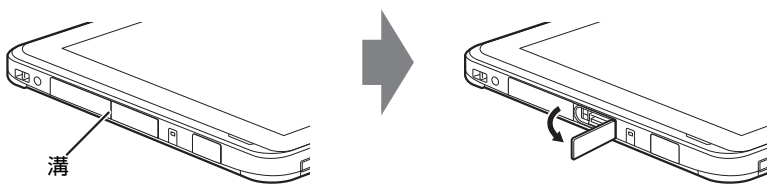
5 カードトレーをnanoSIMカードスロット（下段）の奥まで差し込みます。
イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを上にした状態で挿入しています。



6 カードスロットカバーを閉じます。

3.4.3　nanoSIMカードを取り外す

1 溝に指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開けます。



2 カードトレーのツメをつかみ引き出します。

3 カードトレーからnanoSIMカードを取り外します。

重 要

- 取り外したnanoSIMカードは大切に保管してください。

4 カードトレーをnanoSIMカードスロットの奥まで差し込みます。

5 カードスロットカバーを閉じます。

3.5 アタッチメント

対 象　NFCポート搭載機種、VESAマウント対応機種

タブレット本体とアタッチメント、ハンドストラップ、ショルダーストラップを取り付けることで、タブレットを快適にお使いいただけます。
ここでは、アタッチメントの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.73）をお読みになってから作業をしてください。

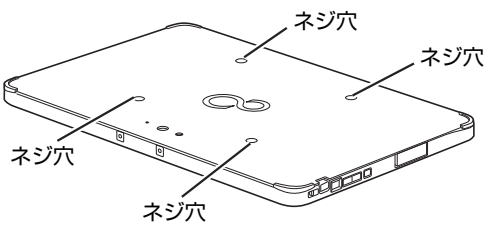
3.5.1 注意事項

- 必ずタブレット本体の電源を切ってください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。
- 添付のネジは幼児が飲み込むと大変危険です。幼児の手が届かない場所に置いてください。
- ネジをしっかり取り付けていないと、使用中にネジが外れタブレット本体が落下するおそれがあります。
- ネジの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。

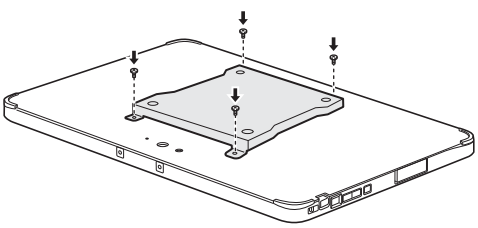
3.5.2　アタッチメントを取り付ける

1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.86）。

2 タブレット本体裏面のネジ穴隠しシート（4ヶ所）をはがします。



3 アタッチメントのネジ穴と、タブレット本体ネジ穴を合わせ、アタッチメント付属のネジで固定します。



POINT

- 本タブレットは、VESAマウント（75㎜×75㎜）に対応しています。

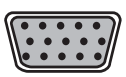
3.6 コネクタの接続／取り外し

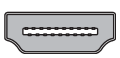
ここでは、タブレット本体やクレードルに周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.139）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.73）をお読みになってから作業をしてください。

3.6.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずタブレット本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

3.6.2 ディスプレイコネクタ


アナログディスプレイコネクタ


HDMI出力端子

microHDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。タブレット本体の電源を切ってから接続してください。
アナログ接続する場合は、カスタムメイドおよび別売のVGA変換アダプタを使用してください。

■ 接続する

1 タブレット本体の電源を切ります。

2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
アナログディスプレイコネクタをお使いの場合は、コネクタのネジを締めてください。

3 ディスプレイの電源を入れてから、タブレット本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重 要

- マルチディスプレイ機能（→P.42）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1 タブレット本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

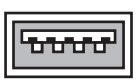
2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□HDMI出力端子／microHDMI出力端子

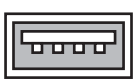
1 タブレット本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.3　USBコネクタ



USB3.0コネクタ



USB2.0コネクタ

USB対応周辺機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重 要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をタップします。
2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.4　オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

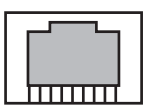
1 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.5　LANコネクタ

対 象　クレードル、LAN変換アダプタ使用時



LANケーブルを接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重 要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章
ソフトウェア

本タブレットにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

4.1 ソフトウェアの紹介 90
4.2 インストール 95
4.3 アンインストール 99

4.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本タブレットにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
  ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をタップしたりすることで表示されます。
- インストール方法
  「4.2 インストール」（→P.95）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

4.1.1　一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて
  お使いのタブレットに該当するOSの欄をご覧ください。
  ・Win10 ：Windows 10
  ・Win8.1：Windows 8.1
- 提供形態について
  ●：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
  ▲：「ドライバーズディスク」に格納（ご購入時はインストールされていません）
  ■：Windows 10の場合、起動メニューより選択（→P.105）
  　　Windows 8.1の場合「トラブル解決ナビディスク」に格納
  「ドライバーズディスク」は、本タブレットのフラッシュメモリに格納されています。
  Windows 8.1の場合は、ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

4.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.90）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win8.1
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。フリーソフトのため、サポートは行っておりません。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から30日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇
Portshutter Premium	対 象 ARROWS Tab Q507/PB USBポート（Webカメラ やNFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	▲	▲
SMARTACCESS/Basic	対 象 スライド式静脈センサー（ARROWS Tab Q507/P-SP）およびNFCポート（ARROWS Tab Q507/PB）搭載機種 スライド式静脈センサー、NFCポートを使用するためのソフトウェアです。	▲	▲
マカフィー リブセーフ	コンピューターウイルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から60日間です。 インストールの方法については「4.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール」（→P.97）を、その他のお問い合わせは「7.3.1 お問い合わせ先」（→P.137）をご覧ください。	◇	◇
ハードディスクデータ消去	フラッシュメモリ内のデータを消去します。 詳しくは、「フラッシュメモリデータ消去」（→P.160）をご覧ください。	■	■

4.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.90）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win8.1
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのタブレットのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 「スタート」メニュー（Windows 10）またはアプリ画面（Windows 8.1）から起動します。 また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのタブレットの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	●	●
サポートナビ	本タブレットを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。	●	●
パソコン乗換ガイド	対 象 ARROWS Tab Q507/PB 今までお使いになっていたタブレットから、現在お使いのタブレットへ必要なデータを移行できます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲	▲
稼働時間積算モニター	本タブレットの稼働時間を記録します。稼働時間の記録は、故障などで修理するときに必要となりますので、アンインストールしないでください。	●	●
端末診断ツール	タブレットの状態を診断し表示します。	▲	▲
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「7.1.6 診断プログラムを使用する」（→P.117）をご覧ください。	■	■

4.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.90）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win8.1
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	▲	▲
Plugfree NETWORK	無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、タブレットを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。 「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。 詳しくは、「Plugfree NETWORK」のヘルプをご覧ください。 なお、無線WANには対応していません。	●	●
Skylight	対 象 無線WANモデル ネットワークサービスへの接続、また接続に必要な設定を行うソフトウェアです。	●	●
Systemwalker Desktop Patrol Lite	対 象 ARROWS Tab Q507/PB タブレットの使用状況（電力量、電力料金、CO_2排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりできます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。	▲	▲
YouCam Mobile for FUJITSU	Webカメラで写真や動画の撮影ができます。	●	●
ステータスパネルスイッチ	タブレットの環境設定や各デバイスの設定を、画面上のボタン操作で可能にするソフトウェアです。 詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.59）をご覧ください。	●	●
ドライバーズディスク検索	ドライバーやアプリケーションをインストールするときに使用するソフトウェアです。	●	●
バッテリーユーティリティ	バッテリの情報を表示します。 詳しくは、「2.9 バッテリ」（→P.53）をご覧ください。	●	●
富士通システムマネージャー	クレードルの着脱の判別を行います。	●	●

4.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.90）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win8.1
Roxio Creator	タブレットのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法についてはソフトウェアのヘルプをご覧ください。	●	●

4.1.6　Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時にOfficeはインストールされています。Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、「4.2.5 Office製品のインストール」（→P.98）またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

重 要

- Windows 8.1で、お客様が作成したリカバリデータディスクでリカバリを実行した場合、Officeはインストールされます。
- ご購入時に添付されているリカバリUSBメモリ（Windows 10の場合）およびリカバリデータディスク（Windows 8.1の場合）を使用してリカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。マイクロソフト社のホームページ（http://www.office.com/jppipcsetup/）からOffice製品をダウンロードしてください。

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.90）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要／提供形態	Win10	Win8.1
Microsoft Office Professional 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2016	表計算		
	Microsoft Outlook 2016	情報管理		
	Microsoft PowerPoint 2016	プレゼンテーション		
	Microsoft OneNote 2016	デジタルノート		
	Microsoft Access 2016	データベース		
	Microsoft Publisher 2016	ビジネスパブリッシング		
Microsoft Office Home & Business 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2016	表計算		
	Microsoft Outlook 2016	情報管理		
	Microsoft PowerPoint 2016	プレゼンテーション		
	Microsoft OneNote 2016	デジタルノート		
Microsoft Office Personal 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2016	表計算		
	Microsoft Outlook 2016	情報管理		

4.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重 要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本タブレットが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者アカウントでWindowsにサインインしてからインストールしてください。

4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

「ドライバーズディスク」(注) またはフラッシュメモリに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索」を使ってインストールできます。

注 ：・「i-フィルター」をインストールする場合は、「4.2.3 「i-フィルター」のインストール」（→P.97）をご覧ください。
・「SMARTACCESS/Basic」をお使いになるには、認証デバイスによりドライバーのインストールが必要になる場合があります。インストール方法については、必ず「4.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール」（→P.97）をご覧ください。

重 要

- 次のソフトウェアは「ドライバーズディスク検索」からインストールできません。各ソフトウェアのインストールをご覧ください。
  ・マカフィー リブセーフ（→P.97）
  ・Office製品（→P.98）
- Windows 8.1の場合、「ドライバーズディスク」は本タブレットのフラッシュメモリに格納されています。ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。なお、本タブレットに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

●フラッシュメモリのデータからインストールする場合

- Windows 10の場合

1. 「スタート」ボタン→「Fujitsu - ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」の順にタップします。
2. メッセージが表示されたら、「OK」をタップします。

- Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Fujitsu - ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」をタップします。

「ドライバーズディスク検索」が起動します。

●ディスクからインストールする場合（Windows 8.1のみ）

1. ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- メッセージ（画面右上）が表示された場合は、そのメッセージをタップし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をタップしてください。
- 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Windows システムツール」の「PC」をタップします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを長押しし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をタップします。
  3. 「DRVCDSRC.exeの実行」をタップします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 「インストール方法の確認」をタップします。

Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

7 テキストファイルを選択し、「開く」をタップします。

テキストファイルの手順に従って、ドライバーをインストールしてください。

●Portshutter Premiumをインストールする場合

デバイス制御、ネットワーク制御でインストール方法が異なります。
それぞれのソフトウェア説明書をご覧になりインストールしてください。

・デバイス制御
「PortshutterPremiumDevice」フォルダの「操作マニュアル.pdf」
・ネットワーク制御
「PortshutterPremiumNetwork」フォルダの「操作マニュアル.pdf」

ドライバーのインストール完了後、本タブレットが再起動します。

4.2.2　「マカフィー リブセーフ」のインストール

POINT

- 「マカフィー リブセーフ」をインストールしていると、お使いのソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

1 次のファイルをご覧になり、インストールします。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥MLS¥Readme.txt

2 インストールが完了したら本タブレットを再起動します。

重 要

- ウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー リブセーフ」のヘルプをご覧ください。
- ウイルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

4.2.3　「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

4.2.4　「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

4.2.5　Office製品のインストール

重 要

- インターネットに接続し、インストールしてください。
- Microsoftアカウントが必要となります。

1 Officeを起動します。

●Windows 10の場合

1.「スタート」ボタン→「Microsoft Office」の順にタップします。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Microsoft Office」をタップします。

2 この後は、画面に従って操作します。

・プロダクトキーの入力
プロダクトキーは、プロダクトキーカードに貼付されています。

・使用許諾契約の同意
ライセンス条項を表示して必ずお読みください。

Office製品のご利用は「Officeの更新」を適用して、常に最新の状態に更新してください。

重 要

- ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを実行した場合、Office製品はインストールされません。マイクロソフト社のホームページからOffice製品をダウンロードしてください。
  インストール方法については、次のホームページをご覧ください。
  http://www.office.com/jppipcsetup/

4.3 アンインストール

4.3.1　注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

4.3.2　アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重 要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールするときは、
  「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド』をご覧ください。
  ・スライド式静脈センサー（ARROWS Tab Q507/P-SP）
  ・NFCポート（ARROWS Tab Q507/PB）

5

第5章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

5.1 BIOSセットアップ 101
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 102
5.3 設定事例集 106

5.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやフラッシュメモリなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本タブレットご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。
次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本タブレットを利用できるように、本タブレットにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。
- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本タブレットが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本タブレットを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

5.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

5.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 ボリュームダウンボタン（→P.17）を押したまま、本タブレットの電源を入れます。

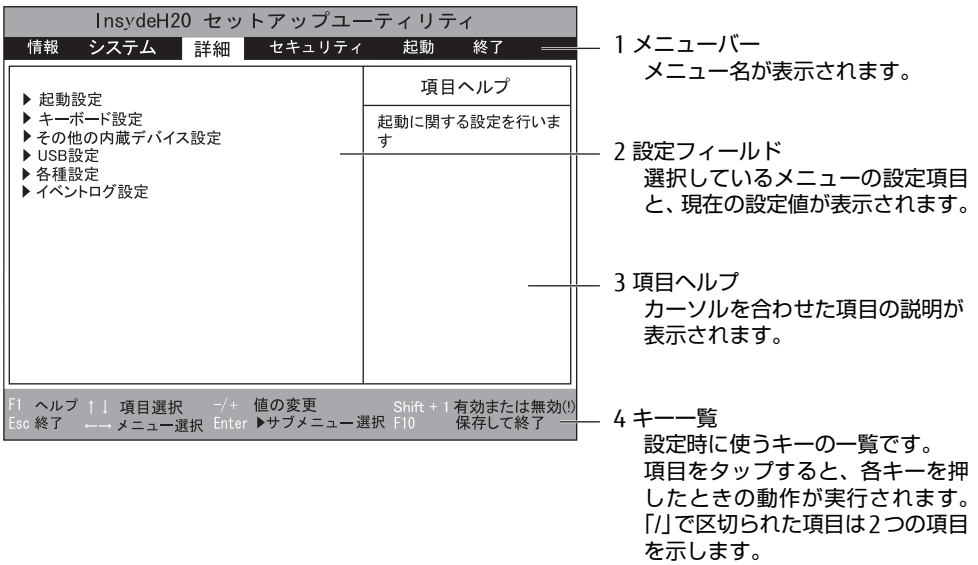
2 BIOSセットアップ画面が表示されたら、ボタンを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.108）してください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本タブレットの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

5.2.2　BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



- BIOSセットアップ画面で設定を変更する場合は、項目をタップして選択した後、もう一度タップします。または、項目をタップして選択した後、「キー一覧」にある「Enter」をタップします。
- サブメニューからメインメニューに戻る場合は、サブメニューのタイトルをタップするか、または、「キー一覧」にある「Esc」をタップします。
- 文字や数値の入力が必要な場合は、入力用ウィンドウをタップするとソフトウェアキーボードが表示されるので、値を入力します。

5.2.3　BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。
本タブレットのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

5.2.4　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。

2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をタップします。
BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して電源を切る」を選択した場合はタブレットの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。

2 「変更を保存せずに終了する」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」をタップします。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重 要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

5.2.5　起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本タブレットを起動します。「リカバリUSBメモリ（Windows 10）」や「トラブル解決ナビディスク（Windows 8.1）」から本タブレットを起動する場合などに使用します。

重 要

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 ボリュームアップボタンを押したまま、本タブレットの電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、ボタンを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.108）してください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本タブレットの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

3 起動するデバイスをタップして選択し、もう一度タップします。
選択したデバイスから本タブレットが起動します。

POINT

- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから「Enter」をタップしてください。
  光学ドライブのデータの読み出し中に「Enter」をタップすると、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、「Esc」をタップしてください。

5.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.106）
・起動デバイスを変更する（→P.108）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.109）
・イベントログを確認する（→P.109）
・イベントログを消去する（→P.110）
・ご購入時の設定に戻す（→P.110）

5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本タブレットで設定できるパスワードは次のとおりです。

□管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重 要

- 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

1 「セキュリティ」メニューで次の項目をタップして選択し、「Enter」をタップします。

・「管理者用パスワード設定」
・「ユーザー用パスワード設定」

2 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。
「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。
「新しいパスワードを入力してください」をタップすると、ソフトウェアキーボードが表示されます。

3 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。
パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

重 要

- パスワードには、アルファベットと数字、記号および半角スペースを使用できます。
大文字、小文字は区別されます。
- パスワードに記号を使用するときの注意
スリムキーボードは、BIOSセットアップの操作中はキーボードの刻印と入力される文字が異なるキーがあります。（スクリーンキーボードは、画面の表示どおりに入力されます。）
そのため、次の「表1」、「表2」にあるキーボードの刻印どおりに入力される記号を使用してください。
・キーボードの刻印どおりに次のキーを押します。

表1	入力する記号	-	;	,	.	/

・【Shift】キーを押しながら対応するキーを押します。（キーボード左上の記号を入力）

表2	入力したい記号	!	#	$	%	<	>	?
	対応するキー	1	3	4	5	,	.	/

- スクリーンキーボードで入力する場合は、【Shift】キーをタップしてから入力したい記号をスクリーンキーボードの表示どおりに入力してください。
- 数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。
- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- 本タブレットの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

4 手順3で入力したパスワードをもう一度入力します。
「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
「Enter」をタップしてウィンドウを消去し、手順3からやり直してください。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.104）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- パスワード入力時にソフトウェアキーボードが表示されます。
- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されます。この場合は、電源ボタンを10秒以上押して本タブレットの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
  ・BIOSセットアップを起動するとき
  ・本タブレットを起動するとき
  ・休止状態からレジュームするとき
  次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

■ パスワードを忘れてしまったら

□対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

□対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった

5.3.2　起動デバイスを変更する

本タブレットの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。
変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

1 「起動」メニューをタップします。

2 優先順位を変更したいデバイスをタップして選択します。

3 次の項目をタップして、優先順位を変更します。

「＋」	選択したデバイスを1つ上に移動します。
「－」	選択したデバイスを1つ下に移動します。
「Shift＋1」	選択したデバイスを有効または無効に設定します。

4 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.104）

5.3.3 Wakeup on LANを有効にする

対 象　クレードル使用時

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本タブレットを起動・レジュームする機能です。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。電源を切る方法については、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

1 「詳細」メニューをタップします。

2 「LANによるウェイクアップ」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

3 「使用する」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.104）

5.3.4 イベントログを確認する

1 「詳細」メニューをタップします。

2 「イベントログ設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

3 「イベントログの表示」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.135）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

5.3.5　イベントログを消去する

1 「詳細」メニューをタップします。

2 「イベントログ設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

3 「イベントログの消去」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

4 「はい」をタップします。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.104）

5.3.6　ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューをタップします。

2 「標準設定値を読み込む」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をタップします。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

- 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
  - ・日時の設定
  - ・言語設定
  - ・高速起動
  - ・管理者用パスワード
  - ・ユーザー用パスワード
  - ・セキュアブート機能

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.104）

6

第6章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

6.1 日常のお手入れ 112

6.1　日常のお手入れ

タブレット本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

6.1.1　タブレット本体、クレードル、スリムキーボード／軽量スリムキーボードの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重 要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重 要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

6.1.2　スライド式静脈センサー

対 象　ARROWS Tab Q507/P-SP

スライド式静脈センサーにほこりや汚れが付いたりすると、スライド静脈認証の精度が低下する可能性があります。スライド式静脈センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重 要

- 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

6.1.3　液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重 要

- 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  ・アルカリ性成分を含んだもの
  ・界面活性剤を含んだもの
  ・アルコール成分を含んだもの
  ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  ・研磨剤を含むもの
- 液晶ディスプレイ／タッチパネル表面を激しくこすると、静電気が発生することがあります。ご注意ください。

7

第7章
トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

7.1 トラブル発生時の基本操作 115
7.2 よくあるトラブルと解決方法 119
7.3 それでも解決できないときは 137

7.1　トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

7.1.1　状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のタブレットの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ タブレットや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずタブレットや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- クレードルに周辺機器を接続している場合、ACアダプタをクレードルに接続していますか？
- スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時、キーボードの上にものを載せていませんか？
  キーが押され、タブレットが正常に動作しないことがあります。

このほか、「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.121）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

7.1.2　以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。
発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

7.1.3　トラブルシューティングで調べる

「7.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.119）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

7.1.4　Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

7.1.5　インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html）では、本タブレットで発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本タブレットに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

7.1.6　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やタブレットの環境によっては長時間かかる場合があります。

重 要

- 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
  電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。
- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「5.3.6 ご購入時の設定に戻す」（→P.110）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 ボリュームアップボタンを押したまま、本タブレットの電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、ボタンを離します。

POINT

- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本タブレットの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

3 「メニュー切り替え」をタップして画面を切り替えます。
アプリケーションメニューが表示されます。

4 「診断プログラム」をタップして選択し、もう一度タップします。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

5 「実行」をタップします。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。「再起動」をタップしてください。診断結果が表示される前に、自動的にタブレットが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

●トラブルが検出されなかった場合

画面の「再起動」をタップしてください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。

起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7へ進んでください。

●トラブルが検出された場合

手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、ボリュームアップボタンを押してタブレットの電源を切ってください。

電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をタップします。

8 診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認し、「実行」をタップします。

ハードウェア診断が始まります。

9 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

10 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をタップします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

11 「終了」をタップします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

12 「はい」をタップします。

●Windows 10の場合

電源が切れ、診断プログラムが終了します。

●Windows 8.1の場合

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。手順13へ進んでください。

13 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をタップし、終了を確認する画面で「OK」をタップします。

タブレットが再起動します。

7.1.7　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「7.3 それでも解決できないときは」（→P.137）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

7.2 よくあるトラブルと解決方法

7.2.1　トラブル一覧

■ 起動 ・ 終了時のトラブル

- 「電源が入らない」（→P.121）
- 「メッセージが表示された」（→P.121）
- 「画面に何も表示されない」（→P.121）
- 「Windowsが起動しない」（→P.122）
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.123）

■ Windows ・ ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにサインインできない」（→P.123）
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.123）
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.123）
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.124）

■ ハードウェア関連のトラブル

□BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」（→P.124）

□メモリ

- 「仮想メモリが足りない」（→P.125）

□LAN

- 「ネットワークに接続できない」（→P.126）
- 「通信速度が遅い」（→P.126）
- 「持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする」（→P.127）

□Bluetoothワイヤレステクノロジー

- 「Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい」（→P.127）

□デバイス

- 「機器が使用できない」（→P.128）

□FeliCa （NFCポート搭載機種）

- 「FeliCaが反応しない」（→P.128）

□バッテリ

- 「バッテリが充電されない」（→P.128）
- 「「バッテリ残量が低下しています。充電してください。30秒後にシャットダウンします。」というメッセージが表示された」（→P.128）

□ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」（→P.129）
- 「表示が乱れる」（→P.129）
- 「画面がくもる、水滴がつく」（→P.129）

□サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.130）
- 「マイクからうまく録音ができない」（→P.130）

□スリムキーボード／軽量スリムキーボード

- 「キーボードが動作しない」（→P.130）

□ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.131）
- 「タッチパネルのポインター位置がずれる」（→P.131）
- 「タッチパネルが使えない／タッチの誤入力が発生する」（→P.131）

□USB

- 「USBデバイスが使えない」（→P.132）
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.132）

□カメラ

- 「アウトWebカメラのフラッシュが暗くなった」（→P.132）

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.133）
- 「長期間使用しなかった後に電源を入れたら、日付と時刻が正しくない」（→P.133）
- 「Windows 10 Pro Education／Windows 10 Homeの場合、ライセンス認証が無効になることがある」（→P.133）
- 「Windows 10 Pro Educationのリカバリ実行後にWindows 10 Proと認識される」（→P.134）

7.2.2　起動・終了時のトラブル

電源が入らない

- ACアダプタは接続されていますか？
  次のような場合には、ACアダプタを接続してください。
  ・ご購入後最初にお使いになる場合
  ・バッテリ運用時にバッテリが充電されていない場合
  「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.54）
  ・長期間未使用状態の場合
  ・クレードルを取り付けている場合は、タブレット本体ではなくクレードルのコネクタにACアダプタを接続してください。
- ACアダプタを外し、強制終了スイッチを押してください。
  ACアダプタを取り外してからUSB2.0コネクタ横にある強制終了スイッチ（→P.16）を、クリップの先などで2～3秒押してください。
  この操作を行うと内蔵の時計がリセットされるので、日付と時刻を設定し直してください。
  設定のしかたについては「長期間使用しなかった後に電源を入れたら、日付と時刻が正しくない」（→P.133）をご覧ください。
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？

メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.135）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.135）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本タブレットが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

- 外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。
  ・タブレット本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
  必ずタブレット本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
  タブレット本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。

・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、タブレット本体の液晶ディスプレイには表示されません。
「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.42）をご覧になり、設定をタブレット本体の液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても本タブレットの液晶ディスプレイが表示されない場合は、本タブレットを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、本タブレットの液晶ディスプレイに表示されます。「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.42）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。

POINT

- **クローン表示の場合、解像度の設定が1366×768の解像度になっていると、外部ディスプレイの周囲に黒帯が表示されたり、拡大表示されることがあります。「8.3.2 クローン表示の解像度」（→P.155）に記載されている解像度に変更してください。**

・クレードルのコネクタをお使いの場合、タブレットにクレードルが正しく取り付けられていることを確認してください。また、クレードルのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていることを確認してください。クレードルを取り付けている場合は、タブレット本体ではなくクレードルのコネクタにディスプレイケーブルを接続してください。

Windowsが起動しない

- **Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- **次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？**
・スライド式静脈センサー
・NFCポート
認証デバイスを使用してWindowsにサインインしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド』をご覧ください。
Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。

Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
  1. 電源ボタンを押しながらボリュームダウンボタンを押します。
  2. 画面右下の「シャットダウン」アイコンをタップします。

  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを10秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

重 要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、フラッシュメモリのチェックをお勧めします。

7.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Windowsにサインインできない

- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインインできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、フラッシュメモリのチェックをお勧めします。

頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。

  ・ウイルス対策ソフトウェアでフラッシュメモリをスキャンする
  定期的にフラッシュメモリをスキャンすることをお勧めします。

  ・Cドライブの空き容量が充分か確認する
  Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
  Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。

・ごみ箱を空にする
・不要なファイルやソフトウェアを削除する
・ディスクのクリーンアップを行う

・フラッシュメモリのエラーチェックを行う

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- **「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。**

「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
表示されていない場合は、次の手順で「FUJ02E3 デバイスドライバー」をインストールしてください。

1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
   「ドライバーズディスク検索」が起動します。
2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
3. 「種別」に「必須」を設定します。
4. 「ソフトウェア」から「FUJ02E3 デバイスドライバー」を選択します。
5. 「インストール」をタップします。

詳しくは、「ドライバーズディスク」に格納されている「readme.jp-JP.txt」をご覧ください。

POINT

- フラッシュメモリからドライバーをインストールすることもできます。
  インストール方法は、「4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」（→P.95）をご覧ください。

7.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- **管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。**

修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.108）をご覧ください。

■ メモリ

仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。
  仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がフラッシュメモリに必要です。
  ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得するには、システムドライブに最低でも物理メモリ＋1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

  POINT

  - 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。
  - 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。
    ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

  仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

  1. コントロールパネルの「システム」を開きます。
     「システムとセキュリティ」→「システム」
  2. ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をタップします。
  3. 「パフォーマンス」の「設定」をタップします。
  4. 「詳細設定」タブをタップし、「仮想メモリ」の「変更」をタップします。
  5. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
  6. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをタップします。
     システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
  7. 「カスタムサイズ」をタップします。
  8. 「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をタップします。
     「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
  9. 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。
  10. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本タブレットを再起動します。

■ LAN

Q ネットワークに接続できない

- クレードルまたはLAN変換アダプタを接続している場合、ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- クレードルをお使いの場合は、次の項目を確認してください。
  ・タブレットとクレードルが正しく取り付けられていますか？
  ・クレードルのDC-INコネクタにACアダプタを接続してください。
  ・クレードルのLANコネクタにLANケーブルを接続してください。
- クレードルまたはLAN変換アダプタを接続している場合、ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
  ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- 「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？
  「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『無線LANご利用ガイド』または『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

Q 通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本タブレットの電源を入れてください。また、本タブレットの使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1000Mbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本タブレットとネットワーク機器が接続されていることを確認後、タブレット本体を再起動してください。
- クレードルとの接続が不安定になっていませんか？
  一度取り外して、接続し直してみてください。状況が改善することがあります。

持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする

- 電波状態によってローミング（※）がうまく行われず、通信が切断されたり不安定になったりすることがあります。
（※）同じ設定をもった複数のアクセスポイント間の接続を切り替える仕組み。

  複数の無線LANアクセスポイントを同じSSID設定で使用している場合、タブレットの設置場所によってはローミングが頻繁に行われ接続が不安定になることがあります。
この場合は、次の手順でローミングの設定を変更し、頻度を調整してください。

  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
  2. 「ネットワーク アダプター」をダブルタップして、次のデバイスをダブルタップします。
・Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265
  3. 「詳細設定」タブをタップし、次のプロパティ内の設定を変更します。

プロパティ名	ローミングの積極性	
値 （選択）	最低	ローミングしにくく、現在のアクセスポイントとの接続を維持しようとする
	中	ご購入時の設定
	最高	ローミングしやすく、アクセスポイントの切り替えが発生しやすい

  4. 「OK」をタップします。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい

- 次の手順で設定を変更してください。
  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
  2. 「Bluetooth」をダブルタップし、「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」をダブルタップします。
  3. 「電源の管理」タブをタップし、「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外します。

■ デバイス

Q 機器が使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。システム管理者に確認してください。
  ・USB（WebカメラやNFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）
  ・NFCポート（FeliCa）
  ・microSDカード

■ FeliCa （NFCポート搭載機種）

Q FeliCaが反応しない

- NFCポートのドライバーは正しくインストールされていますか？
  「4.2 インストール」（→P.95）をご覧になり、NFCポートのドライバーを再インストールしてください。
- 「Portshutter Premium」のUSBのポート設定は有効になっていますか？（→P.128）

■ バッテリ

Q バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？
  ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびタブレット本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリの残量が95%以上ではありませんか？
  バッテリの残量が95%以上の場合は、バッテリを保護するため、充電が始まりません。バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。
- 短い間隔でバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅していませんか？
  バッテリが正しく充電されていません。電源を切ってから、強制終了スイッチを1秒以上押し続けてください。
  それでも状態が変わらない場合はバッテリが異常です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Q 「バッテリ残量が低下しています。充電してください。30秒後にシャットダウンします。」というメッセージが表示された

- バッテリ残量が少ないため、シャットダウン後すぐに電源が入らない場合があります。しばらくの間充電をしてから、電源を入れ直してください。

■ ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

- 「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.121）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
  本タブレットには省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.8 省電力」（→P.50）をご覧ください。

Q 表示が乱れる

- 解像度、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
  「2.4.3 解像度を変更する」（→P.39）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - Windows起動時および画面の切り替え時
  - DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやタブレット本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
  「4.2 インストール」（→P.95）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。

Q 画面がくもる、水滴がつく

- 急激な温度・湿度変化で結露が発生することがあります。
  結露が発生した場合は、電源を切り、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いた後にお使いください。設置場所については『取扱説明書』をご覧ください。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
    スピーカーの出力を確認してください。
  - ・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  - ・タブレット本体またはクレードルと正しく接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  - ・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
  詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.47）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
  必要に応じて、「4.2 インストール」（→P.95）をご覧になり、再インストールしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.47）をご覧ください。

■ スリムキーボード／軽量スリムキーボード

Q キーボードが動作しない

- スリムキーボード／軽量スリムキーボードは正しく接続されていますか？
  スリムキーボード／軽量スリムキーボードを一度取り外し、接続し直してください。
- コネクタ部が汚れていませんか？
  タブレット本体の接続コネクタ部を、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

対 象　スリムキーボード／軽量スリムキーボード使用時

- フラットポイントが無効に設定されていませんか？
  フラットポイントの有効と無効を切り替えるには、【Fn】＋【F4】キーを押してください。【Fn】＋【F4】キーを押すたびに切り替わります。
- 手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？
  フラットポイントから手のひらや袖口を充分に離してください。
  それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。フラットポイントの設定方法については「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.29）をご覧ください。

Q タッチパネルのポインター位置がずれる

- タッチパネルを調整してください。調整方法については「2.3.4 キャリブレーション」（→P.34）をご覧ください。

Q タッチパネルが使えない／タッチの誤入力が発生する

- 次のような状況では、タッチパネルがタッチ入力を誤検出する場合があります。
  ・大きな電力を必要とする機器の近くなど電源ノイズの多い場所でお使いになる場合や、環境の変化（温度や使用する電源や電波環境など）が生じた場合
  このような場合には、バッテリでの運用またはその場を離れて操作するか、タッチの調整を行ってください。
- タッチパネルの調整は、「2.3.5 タッチパネルの設定を変更する」（→P.35）をご覧ください。

■ USB

USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- クレードルのコネクタをお使いの場合、タブレットにクレードルが正しく取り付けられていますか？
  また、クレードルのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。タブレットを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.128）
- USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？
  USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続をお勧めします。
  USB3.0に対応していないUSBデバイスを接続して不具合が発生した場合は、USB2.0コネクタに接続してください。
  また、USB3.0に対応したUSBデバイスにおいても、次の場合にまれに認識できないことがあります。
  ・タブレット本体のUSB3.0コネクタに接続した状態で、電源オンまたはスリープ状態からレジュームしたとき
  このような状態になるUSBデバイスは、USB2.0コネクタに接続してお使いください。

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
  必要なドライバーをインストールしてください。
- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.128）

■ カメラ

アウトWebカメラのフラッシュが暗くなった

- バッテリ残量が少ない状態では、アウトWebカメラでの写真撮影時のフラッシュの明るさが暗くなります。
  本タブレットの充電をしてください。

■ その他

「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」というタブレット本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
  故障ではありませんので、そのままお使いください。

長期間使用しなかった後に電源を入れたら、日付と時刻が正しくない

- バッテリ残量がゼロになったため、内蔵の時計がリセットされています。
  次の手順で日付と時刻を設定し直してください。
  1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「時刻」をタップします。
  2. 「日付と時刻の設定の変更」をタップします。
  3. 「日付と時刻」タブの「日付と時刻の変更」をタップし、表示された画面で設定を変更します。

Windows 10 Pro Education／Windows 10 Homeの場合、ライセンス認証が無効になることがある

- デスクトップ画面の右下に「Windowsのライセンス認証」という透かしが表示されます。
- 壁紙やタスクバーの設定変更画面に、「PCの個人用設定を行う前に、Windowsのライセンス認証を行う必要があります。」と表示され、設定を変更することができません。

  上記の場合は次の手順を行い、ライセンス認証を有効にしてください。

  マイクロソフトAnswer Desk窓口（0120-54-2244）にお問い合わせください。

  ・マイクロソフトAnswer Desk窓口の営業時間
  平日：9:00～18:00
  土日：10:00～18:00（祝日、マイクロソフト指定休業日を除く）

  ・Windows 10 Homeの場合
  1. 2016年12月のWindows Update更新プログラム（KB3206632）をインストールします。
  2. 「スタート」ボタン→ ⚙（設定）→「更新とセキュリティ」の順にタップします。
  3. 画面左側のメニューで「ライセンス認証」をタップします。
  4. 画面右側の「トラブルシューティング」をタップします。
     ライセンス認証のトラブルシューティングツールが起動します。
  5. 画面の指示に従ってトラブルシューティングを実行します。

Windows 10 Pro Educationのリカバリ実行後にWindows 10 Proと認識される

- Windows 10 Pro Educationを使用している場合、リカバリを実行した後にWindows 10 Proと認識される場合があります。

  マイクロソフトAnswer Desk窓口（0120-54-2244）にお問い合わせください。

  ・マイクロソフトAnswer Desk窓口の営業時間

  平日：9:00～18:00

  土日：10:00～18:00（祝日、マイクロソフト指定休業日を除く）

  次の手順でWindowsのエディションを確認することができます。

  1. 「スタート」ボタン→ （設定）の順にタップします。
  2. 「システム」をタップします。
  3. 画面左側のメニューで「バージョン情報」をタップします。
     画面右側の「エディション」に表示されます。

7.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本タブレットが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。
エラーメッセージ一覧には、お使いのタブレットに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常がみつかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
N	
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
O	
Operating system not found	OSがみつからなかったことを示しています。 BIOSセットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかを確認してください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSがみつからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定 」→「セキュアブート機能」を「使用しない」に変更してください。
さ	
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。 セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」→「セキュアブート機能」を「使用しない」に変更してください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。 起動デバイスが正しく接続されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」→「セキュアブート機能」を「使用しない」に変更してください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。 日付と時刻の設定を確認してください。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 日付と時刻を確認し、電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタなしで起動されました。
P	
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した（ヘッダー情報）	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
システムが起動された	イベントログ設定の「イベントログ」を「保存する」に設定した場合に、起動ごとに記録されます。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
診断プログラムが異常を検出（詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
バッテリなしで起動されました	バッテリなしで起動されました。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

7.3 それでも解決できないときは

7.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本タブレットに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- マカフィー リブセーフ
  マカフィー株式会社
  URL：http://www.mcafee.com/japan/home/support/
  （1）テクニカルサポートセンター
  インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-060-033（携帯電話からの場合：03-5428-2279）
  受付時間：9:00 ～ 21:00（年中無休）
  お問い合わせフォーム：http://www.mcafee.com/japan/mlsts/
  （2）カスタマーサービスセンター
  ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-030-088（携帯電話からの場合：03-5428-1792）
  受付時間：9:00 ～ 17:00（土・日・祝祭日を除く）
  お問い合わせフォーム：http://www.mcafee.com/japan/mlscs/
  60 日間の試用期間中、サポートいたします。
- i-フィルター
  デジタルアーツ株式会社
  サポートセンター
  電話：0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  90日間の試用期間中、サポートいたします。

8

第8章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

8.1 本体仕様 139
8.2 CPU 152
8.3 ディスプレイ 153
8.4 無線LAN 156

8.1 本体仕様

8.1.1 ARROWS Tab Q507/PB、ARROWS Tab Q507/PE

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.142）をご覧ください。

■ 標準モデル／GPSモデル

製品名称			ARROWS Tab Q507/PB 標準モデル／GPSモデル	ARROWS Tab Q507/PE 標準モデル／GPSモデル
CPU[注1]	名称		インテル® Atom™ プロセッサー x5-Z8550	
	動作周波数		1.44GHz（最大2.40GHz[注2]）	
	コア数／スレッド数		4／4	
	キャッシュメモリ		2次：2MB	
メインメモリ（オンボード）			標準2GB[注3] （LPDDR3-1600）	標準4GB （LPDDR3-1600）
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 400（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ		メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ[注4]		LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（グレア処理[注5]）	LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（アンチグレア処理）
	解像度／ 発色数[注6]	液晶ディスプレイ表示	WUXGA（1920×1200ドット／1677万色）	
		外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
		外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大2560×1600ドット／最大1677万色	
フラッシュメモリ[注7]			64GB（eMMC）[注8]	
オーディオ機能	オーディオコントローラー		I2S Audioコーデック	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注9] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注9] 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー	
	マイク		デジタルステレオマイク内蔵	
Webカメラ[注10]			裏面：有効画素数 約800万画素 表面：有効画素数 約200万画素	
キーボード[注11]			日本語キーボード （キーピッチ約17.5mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注12]			タッチパネル（静電容量方式）、 スタイラスペン（電磁誘導方式）[注13]、 フラットポイント[注11]	タッチパネル（静電容量方式）、 スタイラスペン（電磁誘導方式）[注14]、 フラットポイント[注11]

製品名称			ARROWS Tab Q507/PB 標準モデル／GPSモデル	ARROWS Tab Q507/PE 標準モデル／GPSモデル
通信機能	LAN[注15]		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注16]、Wakeup on LAN対応[注17]	
	無線WAN		—	
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注19]	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]	
	Bluetooth ワイヤレス テクノロジー[注21]	Windows 10	Bluetooth v4.1準拠	
		Windows 8.1	Bluetooth v4.0準拠	
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			—	
セキュリティ機能				
	セキュリティチップ（TPM）		Intel® PTT	
	NFCポート[注22]		あり	—
インターフェース	本体			
		microSDメモリーカード[注23]	×1スロット	
		外部 ディスプレイ　microHDMI[注24]	×1スロット	
		USB[注25]	USB3.0準拠×1（左側面）[注26] USB2.0準拠×1（右側面）[注27]	
		SIMカード	なし	
		オーディオ　ヘッドホン・ ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
		クレードル／スリムキーボード	×1（専用コネクタ）	
		状態表示	LED	
	拡張クレードル[注28]			
		外部 ディスプレイ　アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
		HDMI[注24]	HDMI出力×1	
		USB[注25]	USB3.0準拠×3（右側面×2、背面×1）[注26]	
		LAN	RJ-45×1	
		オーディオ　ヘッドホン・ ラインアウト兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上	
		マイク・ ラインイン兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス（AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、入力インピーダンス10kΩ以上	
電源供給方式		ACアダプタ[注29]	入力AC100V～240V、出力DC12V（3A）	
		バッテリ	リチウムポリマー 34Wh（取り外し不可）	
バッテリ駆動時間[注30] （JEITA測定法2.0[注31]）			約10.0時間	
バッテリ充電時間[注32]			約4.0時間	
消費電力[注33]（最大時）			約5W（約34W）	
外形寸法（突起部含まず）			W264×D169.7×H11.7mm[注34]	W264×D169.7×H11.8mm
質量			約615g	約635g
電波障害対策			VCCIクラスB	

製品名称	ARROWS Tab Q507/PB 標準モデル／GPSモデル	ARROWS Tab Q507/PE 標準モデル／GPSモデル
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム[注35]	対応[注36]	
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
防水・防塵[注37]	IPX5／IPX7／IPX8／IP5X[注38]	IPX5／IPX7／IPX8／IP5X
プレインストールOS[注39][注40]	Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）、 Windows 8.1 Pro（64ビット版）[注41]	
サポートOS[注39][注42]	Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）、 Windows 8.1 Enterprise（64ビット版）[注41]、 Windows 8.1 Pro（64ビット版）[注41]	

■ 無線WANモデル

製品名称			ARROWS Tab Q507/PB 無線WANモデル	ARROWS Tab Q507/PE 無線WANモデル
CPU[注1]	名称		インテル® Atom™ プロセッサー x5-Z8550	
	動作周波数		1.44GHz（最大2.40GHz[注2]）	
	コア数／スレッド数		4／4	
	キャッシュメモリ		2次：2MB	
メインメモリ（オンボード）			標準2GB[注3] （LPDDR3-1600）	標準4GB （LPDDR3-1600）
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 400（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ		メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ[注4]		LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（グレア処理[注5]）	LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（アンチグレア処理）
	解像度／ 発色数[注6]	液晶ディスプレイ表示	WUXGA（1920×1200ドット／1677万色）	
		外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
		外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大2560×1600ドット／最大1677万色	
フラッシュメモリ[注7]			64GB（eMMC）[注8]	
オーディオ機能	オーディオコントローラー		I2S Audioコーデック	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注9] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注9] 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー	
	マイク		デジタルステレオマイク内蔵	
Webカメラ[注10]			裏面：有効画素数 約800万画素 表面：有効画素数 約200万画素	
キーボード[注11]			日本語キーボード （キーピッチ約17.5mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注12]			タッチパネル（静電容量方式）、 スタイラスペン（電磁誘導方式）[注13]、 フラットポイント[注11]	タッチパネル（静電容量方式）、 スタイラスペン（電磁誘導方式）[注14]、 フラットポイント[注11]
通信機能	LAN[注15]		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注16]、Wakeup on LAN対応[注17]	
	無線WAN		対応（LTE）[注18]	
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注19]	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]	
	Bluetooth ワイヤレス テクノロジー[注21]	Windows 10	Bluetooth v4.1準拠	
		Windows 8.1	Bluetooth v4.0準拠	
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			—	
セキュリティ機能				
	セキュリティチップ（TPM）		Intel® PTT	
	NFCポート[注22]		あり	—

製品名称			ARROWS Tab Q507/PB 無線WANモデル	ARROWS Tab Q507/PE 無線WANモデル
インターフェース	本体			
	microSDメモリーカード[注23]		×1スロット	
	外部ディスプレイ	microHDMI[注24]	×1スロット	
	USB[注25]		USB3.0準拠×1（左側面）[注26] USB2.0準拠×1（右側面）[注27]	
	SIMカード		×1スロット	
	オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
	クレードル／スリムキーボード		×1（専用コネクタ）	
	状態表示		LED	
	拡張クレードル[注28]			
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
		HDMI[注24]	HDMI出力×1	
	USB[注25]		USB3.0準拠×3（右側面×2、背面×1）[注26]	
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上	
		マイク・ラインイン兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス（AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、入力インピーダンス10kΩ以上	
電源供給方式		ACアダプタ[注29]	入力AC100V～240V、出力DC12V（3A）	
		バッテリ	リチウムポリマー 34Wh（取り外し不可）	
バッテリ駆動時間[注30]（JEITA測定法2.0[注31]）			約10.0時間	
バッテリ充電時間[注32]			約4.0時間	
消費電力[注33]（最大時）			約5W（約34W）	
外形寸法（突起部含まず）			W264×D169.7×H11.7mm[注34]	W264×D169.7×H11.8mm
質量			約630g	約650g
電波障害対策			VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム[注35]			対応[注36]	
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
防水・防塵			IPX5／IPX7／IPX8／IP5X[注38]	IPX5／IPX7／IPX8／IP5X
プレインストールOS[注39][注40]			Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）、 Windows 8.1 Pro（64ビット版）[注41]	
サポートOS[注39][注42]			Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）、 Windows 8.1 Enterprise（64ビット版）[注41]、 Windows 8.1 Pro（64ビット版）[注41]	

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「8.2 CPU」（→P.152）をご覧ください。
注2 ：インテル® バースト・テクノロジー（→P.152）動作時。
注3 ：カスタムメイドの選択によっては、「4GB」のメモリが搭載されています。
注4 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注5 ：カスタムメイドにより、「アンチグレア処理」を選択できます。
注6 ：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注7 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注8 ：カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・フラッシュメモリ128GB（eMMC）
注9 ：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注10：・バッテリ残量が少ない状態では、アウトWebカメラでの写真撮影時のフラッシュの明るさが暗くなります。
・「YouCam Mobile for FUJITSU」（→P.93）を使用して動画を撮影する場合、最大解像度は1280×720までとなります。
注11：カスタムメイドでスリムキーボード／軽量スリムキーボードを選択した場合。
注12：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
注13：カスタムメイドの選択によって、「スタイラスペン」または「六角形スタイラスペン」が添付されています。
注14：「スタイラスペン」は標準添付、「六角形スタイラスペン」はカスタムメイドの選択によって添付されています。
注15：カスタムメイドで拡張クレードルを選択した場合。
注16：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注17：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本タブレットの有線LANインターフェース
・本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wakeup on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリの駆動時間が短くなります。Wakeup on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「5.3.3 Wakeup on LANを有効にする」（→P.109）をご覧ください。
注18：・NTTドコモの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにXiに対応したSIMカード（＊1）を装着するだけで、受信時最大225Mbps／送信時最大50Mbps（＊2）の超高速通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。
XiエリアエリアであってもFOMAのエリアであれば受信時最大14Mbps／送信時最大5.7Mbps（＊2）の高速通信が可能です。（＊3）
＊1：ドコモnanoUIMカードが利用可能です。
＊2：対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、送受信時の技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。ベストエフォート方式による提供となり、実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページ（ http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html ）をご確認ください。
＊3：無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS Ⅱ ユニバーサルコネクト」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびXiに対応したプロバイダーとの契約が必要です。
・KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード（＊1）を装着するだけで、4G LTE（＊2）、WiMAX 2+の高速通信がご利用いただけます。（＊3）
＊1：「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。
＊2：一部エリアを除く。
＊3：4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。エリアについての詳細情報は、http://www.au.kddi.com/mobile/area/ をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに応じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。

・SoftBankの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード（＊1）を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも「3Gハイスピード」の通信でご利用が可能です。（＊2＊3＊4）
＊1：ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード（F）」でご利用が可能です。「USIMカード（F）」からnanoサイズで取り外し装着してください。
＊2：SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。
＊3：対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ（http://www.softbank.jp/mobile/network/area/）でご確認ください。
＊4：無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。

注19：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注20：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注21：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注22：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注23：・すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GBまでとなります。
注24：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。
注25：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注26：USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注27：USB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注28：カスタムメイドの選択によって添付されています。
注29：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
注30：バッテリ駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
注31：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver. 2.0）」（http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14）に基づいて測定。
注32：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
注33：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、無線WAN／無線LAN／Bluetoothワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力（満充電時）は、約0.2W以下です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
注34：カスタムメイドで「アンチグレア処理」の液晶ディスプレイを選択した場合は、「W264×D169.7×H11.8mm」となります。
注35：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
注36：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

注37：訪問修理対応モデルの場合は、防水機能はIPX4となります。
注38：カスタムメイドでNFCポートおよびVESAマウント対応を選択した場合は、防水には対応していません。
注39：日本語版。
注40：いずれかのOSがプレインストールされています。
注41：Windows 8.1 Update。
注42：・富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
・Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」（→P.163）をご覧ください。

8.1.2　ARROWS Tab Q507/P-SP

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.148）をご覧ください。

■ 標準モデル／GPSモデル

製品名称			ARROWS Tab Q507/P-SP 標準モデル／GPSモデル
CPU[注1]	名称		インテル® Atom™ プロセッサー x5-Z8550
	動作周波数		1.44GHz （最大2.40GHz[注2]）
	コア数／スレッド数		4／4
	キャッシュメモリ		2次：2MB
メインメモリ（オンボード）			標準2GB[注3] （LPDDR3-1600）
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 400（CPUに内蔵）
	ビデオメモリ		メインメモリと共用
	液晶ディスプレイ[注4]		LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（グレア処理[注5]）
	解像度／発色数[注6]	液晶ディスプレイ表示	WUXGA（1920×1200 ドット／1677万色）
		外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大3840×2160 ドット／最大1677万色
		外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200 ドット／最大1677万色 HDMI：最大2560×1600 ドット／最大1677万色
フラッシュメモリ[注7]			128GB（eMMC）
オーディオ機能	オーディオコントローラー		I2S Audioコーデック
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注8] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注8] 同時録音再生機能
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー
	マイク		デジタルステレオマイク内蔵
Webカメラ[注9]			裏面：有効画素数 約800万画素 表面：有効画素数 約200万画素
ポインティングデバイス[注10]			タッチパネル（静電容量方式）、スタイラスペン（電磁誘導方式）[注11]
通信機能	LAN[注12]		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注13]、Wakeup on LAN対応[注14]
	無線WAN		—
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注16]
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注17]
	Bluetoothワイヤレステクノロジー[注18]		Bluetooth v4.1準拠
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			—
セキュリティ機能			
	スライド式静脈センサー		あり
	セキュリティチップ（TPM）		Intel® PTT

製品名称				ARROWS Tab Q507/P-SP 標準モデル／GPSモデル
インターフェース	本体			
		microSDメモリーカード[注19]		×1スロット
		外部ディスプレイ	microHDMI[注20]	×1スロット
		USB[注21]		USB3.0準拠×1（左側面）[注22] USB2.0準拠×1（右側面）[注23]
		SIMカード		なし
		オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
		クレードル		×1（専用コネクタ）
		状態表示		LED
	拡張クレードル[注24]			
		外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
			HDMI[注20]	HDMI出力×1
		USB[注21]		USB3.0準拠×3（右側面×2、背面×1）[注22]
		LAN		RJ-45×1
		オーディオ	ヘッドホン・ ラインアウト兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上
			マイク・ ラインイン兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス（AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、入力インピーダンス10kΩ以上
電源供給方式			ACアダプタ[注25]	入力AC100V～240V、出力DC12V（3A）
			バッテリ	リチウムポリマー 34Wh（取り外し不可）
バッテリ駆動時間[注26]（JEITA測定法2.0[注27]）				約10.0時間
バッテリ充電時間[注28]				約4.0時間
消費電力[注29]（最大時）				約5W（約34W）
外形寸法（突起部含まず）				W281×D169.7×H11.7mm[注30]
質量				約615g
電波障害対策				VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率				富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム[注31]				対応[注32]
温湿度条件				温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
防水・防塵				IPX4／IP5X
プレインストールOS[注33][注34]				Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）
サポートOS[注33][注35]				Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）

■ 無線WANモデル

製品名称			ARROWS Tab Q507/P-SP 無線WANモデル
CPU[注1]	名称		インテル® Atom™ プロセッサー x5-Z8550
	動作周波数		1.44GHz （最大2.40GHz[注2]）
	コア数／スレッド数		4／4
	キャッシュメモリ		2次：2MB
メインメモリ（オンボード）			標準2GB[注3]（LPDDR3-1600）
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 400（CPUに内蔵）
	ビデオメモリ		メインメモリと共用
	液晶ディスプレイ[注4]		LEDバックライト付 10.1型ワイド TFTカラー、 IPS Aipha液晶（グレア処理[注5]）
	解像度／発色数[注6]	液晶ディスプレイ表示	WUXGA（1920×1200 ドット／1677万色）
		外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大3840×2160 ドット／最大1677万色
		外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200 ドット／最大1677万色 HDMI：最大2560×1600 ドット／最大1677万色
フラッシュメモリ[注7]			128GB（eMMC）
オーディオ機能	オーディオコントローラー		I2S Audioコーデック
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注8] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注8] 同時録音再生機能
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー
	マイク		デジタルステレオマイク内蔵
Webカメラ[注9]			裏面：有効画素数 約800万画素 表面：有効画素数 約200万画素
ポインティングデバイス[注10]			タッチパネル（静電容量方式）、スタイラスペン（電磁誘導方式）[注11]
通信機能	LAN[注12]		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注13]、Wakeup on LAN対応[注14]
	無線WAN		対応（LTE）[注15]
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注16]
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注17]
	Bluetoothワイヤレステクノロジー[注18]		Bluetooth v4.1準拠
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			—
セキュリティ機能			
	スライド式静脈センサー		あり
	セキュリティチップ（TPM）		Intel® PTT

製品名称				ARROWS Tab Q507/P-SP 無線WANモデル
インターフェース	本体			
		microSDメモリーカード[注19]		×1スロット
		外部ディスプレイ	microHDMI[注20]	×1スロット
		USB[注21]		USB3.0準拠×1（左側面）[注22] USB2.0準拠×1（右側面）[注23]
		SIMカード		×1スロット
		オーディオ	ヘッドホン・ ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
		クレードル		×1（専用コネクタ）
		状態表示		LED
	拡張クレードル[注24]			
		外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
			HDMI[注20]	HDMI出力×1
		USB[注21]		USB3.0準拠×3（右側面×2、背面×1）[注22]
		LAN		RJ-45×1
		オーディオ	ヘッドホン・ ラインアウト兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上
			マイク・ ラインイン兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス（AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、入力インピーダンス10kΩ以上
電源供給方式			ACアダプタ[注25]	入力AC100V～240V、出力DC12V（3A）
			バッテリ	リチウムポリマー 34Wh（取り外し不可）
バッテリ駆動時間[注26]（JEITA測定法2.0[注27]）				約10.0時間
バッテリ充電時間[注28]				約4.0時間
消費電力[注29]（最大時）				約5W（約34W）
外形寸法（突起部含まず）				W281×D169.7×H11.7mm[注30]
質量				約630g
電波障害対策				VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率				富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム[注31]				対応[注32]
温湿度条件				温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
防水・防塵				IPX4／IP5X
プレインストールOS[注33][注34]				Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）
サポートOS[注33][注35]				Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）、 Windows 10 Home（64ビット版）

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「8.2 CPU」（→P.152）をご覧ください。
注2 ：インテル® バースト・テクノロジー（→P.152）動作時。
注3 ：カスタムメイドの選択によっては、「4GB」のメモリが搭載されています。
注4 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注5 ：カスタムメイドにより、「アンチグレア処理」を選択できます。
注6 ：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注7 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注8 ：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注9 ：・バッテリ残量が少ない状態では、アウトWebカメラでの写真撮影時のフラッシュの明るさが暗くなります。
・「YouCam Mobile for FUJITSU」（→P.93）を使用して動画を撮影する場合、最大解像度は1280×720までとなります。
注10：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
注11：カスタムメイドの選択によって、「スタイラスペン」または「六角形スタイラスペン」が添付されています。
注12：カスタムメイドで拡張クレードルを選択した場合。
注13：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注14：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本タブレットの有線LANインターフェース
・本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wakeup on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリの駆動時間が短くなります。Wakeup on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「5.3.3 Wakeup on LANを有効にする」（→P.109）をご覧ください。
注15：・NTTドコモの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにXiに対応したSIMカード（＊1）を装着するだけで、受信時最大225Mbps／送信時最大50Mbps（＊2）の超高速通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。
Xiエリア外であってもFOMAのエリアであれば受信時最大14Mbps／送信時最大5.7Mbps（＊2）の高速通信が可能です。（＊3）
＊1：ドコモnanoUIMカードが利用可能です。
＊2：対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、送受信時の技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。ベストエフォート方式による提供となり、実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページ（ http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html ）をご確認ください。
＊3：無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS Ⅱ ユニバーサルコネクト」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびXiに対応したプロバイダーとの契約が必要です。
・KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード（＊1）を装着するだけで、4G LTE（＊2）、WiMAX 2+の高速通信がご利用いただけます。（＊3）
＊1：「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。
＊2：一部エリアを除く。
＊3：4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。エリアについての詳細情報は、http://www.au.kddi.com/mobile/area/ をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに応じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。

・SoftBankの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード（＊1）を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも「3Gハイスピード」の通信でご利用が可能です。（＊2＊3＊4）
＊1：ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード（F）」でご利用が可能です。「USIMカード（F）」からnanoサイズで取り外し装着してください。
＊2：SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。
＊3：対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ（http://www.softbank.jp/mobile/network/area/）でご確認ください。
＊4：無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。

注16：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注17：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注18：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注19：・すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GBまでとなります。
注20：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。
注21：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注22：USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注23：USB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
注24：カスタムメイドの選択によって添付されています。
注25：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
注26：バッテリ駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
注27：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver. 2.0）」（http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14）に基づいて測定。
注28：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
注29：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、無線WAN／無線LAN／Bluetoothワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力（満充電時）は、約0.2W以下です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
注30：カスタムメイドで「アンチグレア処理」の液晶ディスプレイを選択した場合は、「W281×D169.7×H11.8mm」となります。
注31：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
注32：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

注33：日本語版。
注34：いずれかのOSがプレインストールされています。
注35：・富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
・Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」（→P.163）をご覧ください。

8.2 CPU

本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル® バースト ・ テクノロジー

インテル®バースト・テクノロジーは、CPUの負荷状況にあわせてパフォーマンスを引き上げる機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション ・ テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

8.3 ディスプレイ

8.3.1　シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

タブレット本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本タブレットが出力可能な解像度です。
外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1600×1200	○
1680×1050	○
1920×1080	○
1920×1200	○

■外部ディスプレイ　（アナログ接続／HDMI接続）

解像度	対応
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1600×1200	○
1680×1050	○
1920×1080	○
1920×1200[注1]	○
2560×1600[注2]	○
3840×2160[注3]	○

注1 ：アナログRGB出力の場合、最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz（CVT RB：Coordinated Video Timings Reduced Blanking）です。
お使いのディスプレイがアナログRGB入力での1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。お使いのディスプレイの仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。
注2 ：HDMI出力端子を使用する場合に表示できます。
注3 ：タブレット本体のHDMIコネクタを使用する場合のみ表示できます。

8.3.2　クローン表示の解像度

クローン表示する場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイの仕様により異なります。同時に表示する2つのディスプレイの、最大解像度より小さい解像度またはそれ未満の解像度で表示できます。
お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイ （アナログ接続／HDMI接続）

解像度	対応
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768注1	○
1440×900注1	○
1600×900注1	○
1600×1200	○
1680×1050注1	○
1920×1080注1	○
1920×1200注2	○

注1 ：お使いの外部ディスプレイのパネル解像度と一致した場合にご利用いただけます。
注2 ：アナログRGB出力の場合、最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz（CVT RB：Coordinated Video Timings Reduced Blanking）です。
お使いのディスプレイがアナログRGB入力での1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。お使いのディスプレイの仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。

8.4 無線LAN

本タブレットに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、 IEEE 802.11ac準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠）注1	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応）注2
	IEEE 802.11ac準拠	867～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,740MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11n準拠	・2.4GHzモード 1～13ch ・5GHzモード W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）

注1 ：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2 ：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。
・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。

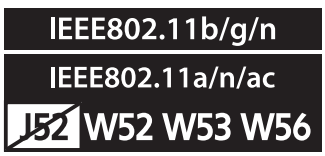
注3 ：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80に対応しています。VHT80を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80に対応している必要があります。
・IEEE 802.11acを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80の機能を無効にしてください。

注4 ：IEEE 802.11n、IEEE 802.11acで接続するためには、パスフレーズ（PSK）をAESに設定する必要があります。

注5 ：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

注6 ：このタブレットに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□5GHz帯のチャンネルについて



IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **フラッシュメモリのデータを消去していますか？**
  タブレット本体に搭載されているフラッシュメモリには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。タブレットを廃棄するときは、フラッシュメモリ内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  フラッシュメモリ内のデータ消去については、「付録1 タブレット本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.159）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

付録1　タブレット本体の廃棄 ・ 譲渡時の注意

ここでは、タブレットを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

タブレットの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意

タブレットは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのタブレットの中のフラッシュメモリという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのタブレットを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このフラッシュメモリ内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリ内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このタブレットのフラッシュメモリ内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
タブレットユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、フラッシュメモリ上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリ上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、フラッシュメモリ上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくタブレットを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

フラッシュメモリデータ消去

■ 注意事項

- タブレット本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、データ消去（Windows 10）または「ハードディスクデータ消去」（Windows 8.1）を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとフラッシュメモリに格納されているデータ（リカバリデータなど）も消去されます。
  必要があればWindows 8.1の場合は「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- Windows 8.1の場合は「トラブル解決ナビディスク」を起動してから、72時間経過すると、本タブレットが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。本タブレットで「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリが故障する可能性があります。
- Windows 8.1の場合はデータ消去中に「トラブル解決ナビディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- Windows 8.1の場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け光学ドライブは、添付のACアダプタを接続した状態で使用します。
  外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

■ データ消去方法

□Windows 10の場合

1 ボリュームアップボタンを押したまま、本タブレットの電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、ボタンを離します。

POINT

- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本タブレットの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧ください。

3 「メニュー切り替え」をタップして画面を切り替えます。
アプリケーションメニューが表示されます。

4 「診断プログラム」をタップして選択し、もう一度タップします。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

5 「実行」をタップします。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。「再起動」をタップしてください。診断結果が表示される前に、自動的にタブレットが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

●トラブルが検出されなかった場合

画面の「再起動」をタップしてください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。

起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7へ進んでください。

●トラブルが検出された場合

手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、ボリュームアップボタンを押してタブレットの電源を切ってください。

電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をタップします。

8 「ツール」タブをタップします。

9 「データ消去」にチェックを付け「実行」をタップします。

表示された画面に従って操作してください。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

重 要

- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、フラッシュメモリデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

10 「終了」をタップします。

タブレット本体の電源が切れます。

重 要

- 電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを10秒以上押して、電源を切ってください。

□Windows 8.1の場合

「トラブル解決ナビディスク」を用意してください。

1. 「トラブル解決ナビディスク」をセットします。
2. 「2.8.2 電源を切る」（→P.51）をご覧になり、タブレット本体の電源を切ります。
3. 「5.2.5 起動メニューを使用する」（→P.105）をご覧になり、光学ドライブから起動します。
   「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ユーティリティ」タブをタップし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をタップします。
   「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
5. 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。
   表示された画面に従って操作してください。
   データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

   重 要

   - フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、フラッシュメモリデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。
6. 「トラブル解決ナビディスク」を取り出します。
7. 電源ボタンを10秒以上押して、電源を切ります。

付録2　Windowsの新規インストールについて

Windowsを新規にインストールするときに気を付けていただきたいことについて説明します。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、フラッシュメモリのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 「ドライバーズディスク」の「種別」－「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドに合わせたドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、タブレットが正常に動作しません。
- 最新版のドライバーやユーティリティは、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて提供されている場合があります。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。
- 別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- USB3.0コネクタがOSのインストール時に使用できない場合があります。USBキーボード、USBマウス、スーパーマルチドライブユニットなどのUSB機器は、USB2.0コネクタに接続してください。
- OSのインストール中は、タッチパネルでは操作できません。USBキーボードとUSBマウスを接続してください。USBコネクタが不足する場合は、USBハブを接続してください。
- Windowsを新規インストールした後は、必ずドライバーズディスクまたはドライバーズディスク検索から「I/O接続親和性向上ツール」をインストールしてください。

■ Windows 10の新規インストールを行う場合の注意

- Windows 10をお使いの場合、本タブレットに「ドライバーズディスク」がありません。Windows 10の新規インストールを行う前に、Cドライブに格納されているドライバー（フォルダごと）をUSBメモリなどにバックアップをしてください。

  C:¥Fujitsu¥SoftwareDisc¥Drivers

  新規インストールの手順4でドライバーおよびユーティリティをインストールするときに、このデータをコピーして使用します。

新規インストールの準備

■ キーボード、 マウス、 外付け光学ドライブを接続する

■ BIOSの設定をご購入時の状態に戻す （→P.110）

■ フラッシュメモリデータを消去する （→P.160）

■ ディスクを用意する

- 正規のWindows 10またはWindows 8.1のインストールディスク
- 事前にドライバーをバックアップしたUSBメモリ（Windows 10の場合）
- ドライバーズディスク（Windows 8.1の場合）

新規インストール手順

1 インストールディスクをセットした外付け光学ドライブを、タブレット本体に接続します。

2 インストールディスクを起動します。

1. ボリュームアップボタンを押したまま、本タブレットの電源を入れます。
2. 起動メニューが表示されたら、ボタンを離します。
3. CD/DVDを選択して【Enter】キーを押します。
   - ・「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
     BIOSの設定が誤っている可能性があります。「新規インストールの準備」（→P.164）に戻り、設定を確認してください。
   - ・「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

3 画面の指示に従って、OSのインストールとセットアップを行います。

途中、「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示された場合は、「プライマリ」と書かれたパーティションを選択してください。

4 ドライバーおよびユーティリティをインストールします。

1. 次の操作を行います。
   - Windows 10の場合
     1. 事前にドライバーをバックアップしておいたUSBメモリを、USBコネクタに差し込みます。
     2. 次のフォルダにバックアップしたドライバー（フォルダごと）をコピーします。
        C:¥Fujitsu¥SoftwareDisc¥Drivers
     3. コピーしたフォルダを開き、次のファイルをダブルタップします。
        DrvCdSrc.exe
     4.「ドライバーズディスク検索」が起動します。
   - Windows 8.1の場合
     1.「ドライバーズディスク」をセットします。
       「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
       自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
2. 「種別」から「必須」を選択します。
3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。
4. 「種別」から「任意」または「すべて」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

POINT

- すでにインストールされているドライバーおよびユーティリティは、グレー表示されます。
- インターネットに接続すると、自動的にインストールされるドライバーおよびユーティリティがあります。

5 すべてのドライバーおよびユーティリティをインストールした後は、Windows Updateを実行しWindowsを最新の状態に更新してください。

詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

付録3　認定および準拠について

本タブレットに固有の認定および準拠マークに関する詳細（認証・認定番号を含む）は、次の手順で表示される画面で確認できます。

1 BIOSセットアップを起動します。
「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.102）

2 「情報」メニューをタップします。

3 「認証表示」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
「認証表示」が表示されます。

ARROWS Tab
Q507/PB
Q507/PE
Q507/P-SP

製品ガイド
B5FK-8021-02 Z0-01

発 行 日　2017年8月
発行責任　富士通株式会社

〒105-7123　東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。